ALUMNI NEWS

INTERNATIONAL
CHRISTIAN UNIVERSITY

ICU ALUMNI
ASSOCIATION
3-10-2, Osawa
Mitaka-shi, Tokyo 181-8585
TEL&FAX : 0422-33-3320
http://www.icualumni.com/
E-mail : aaoffice@icualumni.com

ALUMNI NEWS
VOL.126 MAR.2017

特集 ICU の寮

今、振り返るICUの寮 : p.02
ICUの今を知る10のまとめ : p.08
桜祭りのご案内 : p.30

DORM×ICU

特集 昔の寮、今の寮。これからの寮

1987年　男子寮居室

今、振り返るICUの寮

独特の文化により学内で存在感を感じさせるICUの寮。寮がICUの独自性の重要な一部であることは間違いない。その歴史をひも解けば、寮生がなぜ寮にこだわるのか、何にこだわってきたのか、その価値が見えてくる。

文：樺島榮一郎（本誌）

ICUの寮の歴史は1954年12月に第一男子寮、第一女子寮が竣工し、翌年1月に開寮したことに始まる。1953年のICUの正式開学から約2年後のことである。開学以前から、教職員、学生の全員がキャンパスに居住し、共同体をつくるという理念（ICUファミリー）があり、開学と同時に寮を開設することは当然、意図されていた。しかし、米国での募金[1]の不調や戦後日本の急激なインフレがあり、建設が間に合わなかったというのが正直なところだろう。これに加えて終戦直後の極端な住宅難の状況と、キャンパス周辺が田園で民間のアパート、下宿などは期待できず、地方出身の学生の住む場所がないという実情もあった。各団体に募金を割り振る方式により米国での募金が軌道に乗ったこともあり、その後、寮の建設は急速に進む。2年後の1956年には第二男子寮、第二女子寮、翌1957年には第三女子寮とシブレーハウス（大学院生用の寮）が次々に建設された。

開設当初につくられた寮の文化

当時、ICUの寮は日本でも最先端の設備を誇った。週刊誌[2]で「一流のサロンを思わせる社交室」、洗面所からはお湯が出て、スチーム暖房がある環境に慣れた寮生は「卒業したら風邪をひくだろう」などと書かれた。また「机・椅子・本箱・ベッド・衣装棚・タンス・電気スタンドのはてまで備え付けであり、電気洗濯機もある」「日本一般の寮という概念とはおよそかけはなれた完備ぶり」[3] といった文章からは学生自身の驚きも伝わってくる。

そしてごく初期から、現在と同じような寮生活のあり方が形成されていたことは興味深い。学生会の発行する年報『The ICU』[4]や並木浩一先生（2期）の回想録[5]を読むと、開寮当時から月一度の寮会があり、寮長や各業務の担当が置かれ、寮が自治的に運営されていたことが分かる。第二寮開設時に記念寮祭が行われたことや、1959年の年中行事として5月の寮祭が記載されていることから、寮祭が開設当初から開催されていたことも分かる。また、第二寮開設時に「ストーム」[6]が行われたという記事があることから「ストーム」も存在したのである。このような自治的な仕組みや、「寮祭」、「ストーム」などのICUの寮文化は、旧制高校[7]の寮の影響を受けたものではなかったか。「ストーム」という催しと言葉は、もともと旧制高校の寮で使われたものである。大学への進学を保証された旧制高校の寮の自由な生活は、受験生向けの本や雑誌などを通じて広く中学生などに知られるところであった。また、少なからぬ日本人教員も旧制高校での体験を持っていただろうから、あまり明確に意識することなく、ごく自然に日本の高等教育機関の寮のひな形として旧制高校の寮のあり方が共有され、それをベースにICUの寮の文化もつくられたのではなかろうか。

また、当時から寮は単なるアパートではなく共同体だという意識、運営や生活で他人とのあつれきもある中で、よりよい寮を目指していくことなど、筆者が寮生だったころにも盛んに言われていたことが、寮生の意識にあったということも確認できる[8]。他人と一緒に協力して生活するというのが寮であるが、初期の寮生はそれを積極的にとらえる価値をつくっていった。各寮の個性も、第二寮が開設された時に、第一寮との違いという形で強く意識されたのを始まりに、代々、受け継がれていった。

この寮の文化は、1962年に開寮したカナダハウスにも移植される。第一男子寮、

表1　寮関連年表

区分	年	事柄	説明
開設期	1953	4月、正式開学	学生入学、正式に大学としてスタート
	1954	第一男子寮、第一女子寮完成	ヴォーリズ建築事務所設計。メイプルグローブ、教員住宅、食堂とともに12月に竣工。翌年1月より使用開始
	1956	第二男子寮、第二女子寮完成	ヴォーリズ建築事務所設計、男子寮はアジア財団、女子寮はハワイ聖公会の寄付による
	1957	シブレーハウス、第三女子寮、完成	志村設計士事務所設計、シブレーは財団婦人委員会、第三女子寮は米バプテスト教会婦人部の寄付による
	1962	カナダハウス完成	レイモンドのスケッチに基づき大成建設が設計 日本YWCAで働いていたEmma R. Kaufmanを中心とするカナダの諸教会の寄付による
7(8)寮時代	1964	第四女子寮完成	稲富建築事務所設計
	1960年代中ごろ	細木杯始まる	男子寮対抗のラグビーカップ
	1970年代		
	1983	岡田杯始まる	当初は成人の日に開催。その後、年2回の開催となる
	2001	グローバルハウス完成	設計は、一粒社ヴォーリズ建築事務所。第二男子寮の南側に建てられた
	2004	細木杯最後の開催	最後は、第二男子寮対第一・カナダ連合で試合が行われた
建て替え期	2009	第一男子寮、第一女子寮、メイプルグローブ、学食取り壊し	新寮建設のために取り壊し
	2010	欅寮完成	アメリカ人建築家が主宰するGYA Architects,Inc.が基本設計を行い日建設計が実施設計を行う
	2011	樫寮、銀杏寮、完成	基本的に欅寮と同じ設計
	2015	第二男子寮、第二女子寮、取り壊し	新々2寮建設のために取り壊し
	2017	新々2寮完成予定	隈研吾設計事務所からアドバイスを受け清水建設が設計、施工 7階建てと5階建てを組み合わせ、第二男子寮の跡地に建設

1962年12月　第一・第二男子寮ラグビー

1992年1月　岡田杯で優勝した第二男子寮のメンバー

完成直後の第一女子寮前で湯浅八郎氏ら

第二男子寮のソーシャルルームで行われたと思われる、1956年の寮祭の様子

「一流のサロンを思わせる社交室」いうフレーズとともに『週刊朝日』に掲載された、開設直後の第二男子寮ソーシャルルーム

および、第二男子寮から上級生が移り住み、既存の寮の運営方法や文化を伝えたのである[9]。

7寮時代と建替え

そして、1964年に第四女子寮が完成すると、ICUの寮制度は一時的な完成を迎える。以後、37年にわたり7寮の時代が続くのである。この状況は、他大学の新規参入も少なく、競争も緩やかで、ICU自体が大きな変更を行う必要がなく完成していたことの反映とも言えよう。この時期に、イニシエーション、寮回り、バカ山発表会、寮祭、細木杯、岡田杯などが7寮の年中行事として導入、もしくは、既にあったものは、さらに洗練され、完成されたものとなっていった。新入寮生が新学期の最初の一週間に仮装をして登校するイニシエーションは、新入男子寮生が女子寮を、新入女子寮生が男子寮を訪問する寮回り、イニシエーションの一週間を締めくくるバカ山発表会と組み合わされた一連の行事となった。当初はソーシャルルームなど寮内で行われていた寮祭は、10月開催となり、旧D館オーディトリアムを借りるなど大規模になった。男子寮間のラグビー対抗戦である細木杯は、戦前、東京市（現東京都）の幹部として活躍し、1948年に最初のICU職員となった細木盛枝さん（1892-1984）の支援により、1960年代半ばに始められた。男子寮のサッカー対抗戦である岡田杯は、細木杯に触発された第二男子寮生の発案で1983年に始まったもので、岡田杯の名称は、カップ購入のための資金を出した第二男子寮生の名前による。これらの行事は、寮間の連帯を強めるとともに、寮の個性と対抗意識を高める方向にも働いた。

2001年には、男女をフロアに分けて同じ建物に収容するなど新しい試みを取り入れたグローバルハウスが50周年記念事業の募金により開設され、8寮体制となる。この時は、カナダハウスのように、既存寮の上級生を移住させ、運営方法と文化を伝えることは公式には行われなかった[10]。とは言え、多くの人が自治的に共同生活を送るためには、運営の仕組みが必須となる。ほぼ全員が新入寮生でスタートしたグローバルハウスの寮生は、他寮を参考に、寮会やキャビネットなどの運営の仕組みを苦労しながらも作り上げ[11]、岡田杯などの寮行事にも参加するようになっていった。

このような寮制度が大きく変わったのは、2009年の第一男子寮と第一女子寮の取り壊しと、その跡地に、2010年に欅寮、2011年に樫寮と銀杏寮が開設された時だ。強まる大学間競争のなかで、ICUは寮をICUの特長にしようと、寮の拡張へと舵を切ったのである。これらの寮は、その126人収容という規模や二人部屋7つをポッドと呼ばれる単位でまとめる空間の作り、オートロックを使った厳格な門限制度、監視カメラの配置、寮生は1、2年生のみ、（グローバルハウスで始まったものだが）男女のフロアごとの居住など、既存の寮と大きく異なっていた。これらの寮を新寮、既存の寮を旧寮とする呼び名が、広く使われるようになったのも、規模の大きさのみならず、それらが全く新しい寮のあり方だったからに他ならない。既存寮の寮生をスタートアップのメンバーとすることは、明確な意思を持って行われなかった。大学は、この時、より管理を強め寮生の自治を弱めた寮を作ろうとしたのである。これらの新しい試みは、受け入れられている面もあれば、改善されていった面もある。当初から新寮の寮生の不満は大きかったが、彼らが粘り強く大学と交渉することで、監視カメラの一部撤去などが行われることとなった。また、2017年度からは、寮の運営や寮生の縦のつながりを考慮して、1～4年の寮生を収容する寮に移行する予定となっている。一方で、寮長ではなく、各フロア長やポッド長を置く運営のあり方は、フロア単位をベースとする寮の運営形態として新寮の寮生が考案したものであり、現在でも機能し続けている。

2017年には、新々2寮という名で計画されてきた7階建てと5階建ての大規模な寮が2棟（計320人収容）、第二男子寮の跡地に開設される。この寮のスタート時には、新寮・旧寮から上級生が移り住むことが計画されている。また「ICU教育寮の将来を考える会」という400人ほどの寮生OBからなる組織が、大学と共同で議論と4回のワークショップを行い、設計における空間づくりや、運営の組織づくりにかか

表2　ICUの寮一覧

	延床面積	構造	建設時収容人数	1987年人数	閉寮時／現時点人数
第一男子寮*	779.44	木造2階	64	45	(32)
第一女子寮*	666.98	木造2階	48	36	(24)
第二男子寮*	857.26	RC 3階	64?	41	(32)
第二女子寮*	851.75	RC 3階	64?	43	(32)
第三女子寮	722.14	RC 3階	40	40	40
カナダハウス	896.45	RC 3階	?	45	34
第四女子寮	948.81	RC 3階	64?	45	32
グローバルハウス	2617.19	RC4階	ー	ー	64
欅寮	4700.00	RC 3階	ー	ー	126
樫寮	4700.00	RC 3階	ー	ー	126
銀杏寮	4700.00	RC 3階	ー	ー	126
楓寮、樅寮（新々２寮）	10819.00	RC7/5階	ー	ー	320

*取り壊され、現存せず
新々 2寮が完成すると、現存する寮の収容人数は868人、定員2480人に対し、35%となる

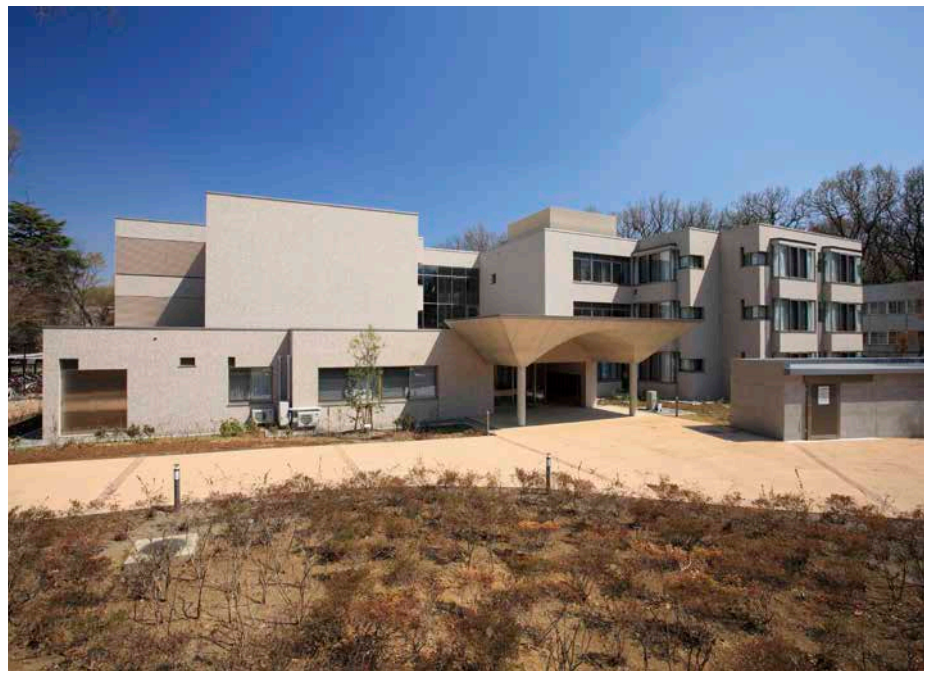
2016年10月に開催された、新々２寮に移住する寮生のためのワークショップ。寮の目指すところ、運営組織や行事などをフロアごとに考え、発表した。

1986年　セプテン・イニシエーション

2016年　新寮のファサード

1987年　第二男子寮の餅つき

1961年4月　第一男子寮入寮式


2011年　完成直後の樫寮外観

わり、ICUの寮の伝統を踏まえた寮づくりがなされた。その一方で、男女混合フロアの設置や、Living Learning Programというコンセプトのもと、1階に多目的室を設け、レクチャーやイベントなど広く寮外に開放して使用できるようにするといった新しい試みも計画されている。樅（もみのき）寮、楓寮と名づけられるというこの寮は、また新しいICUの寮の時代を開くことだろう。

寮の価値とは何か

ICUの寮を振り返ってみると、寮の価値とは、他人と共存して自分たちで寮を運営するということ、その中で否応なしに、選り好みできない人間関係の中で一緒に生きることにあるように思える。それは人生や社会のリアルな予行練習なのだ。大学は一時、自治を減じた寮をつくろうとした時期もあった。筆者も大学教員なので、学生の安全や事件が起こった場合に大学が被るリスクを考えれば、リスクを減らしたいという気持ちはよく分かる。社会の許容範囲は狭まる一方で、事件が起こった場合の批判や制裁はかつてより圧倒的に大きなものとなっており、決して失敗は許されない状況になっている（それは試行錯誤や新しい試みを減少させる日本社会全体の問題だと思うが、ここでは論じない）。しかし、管理は、寮生が自分たちで物事を決め、運営していくという良さや自由を減じて、寮の価値を薄めてしまう。寮が担ってきたのは、寮生自身がいろいろな問題に直面し、考えて交渉し、決めていくということ、同年代の人々と話して観察して濃厚に付き合う時間、自分の持ってきた価値やあり方が一度壊され、人々の交わりのなかで再構築される、といったかけがえのない教育とその環境の提供であり、そのための費用は、寮生のその後の生き方で寮生自身のみならず大学にとっても報われるものであったと思う。このような寮は、ICUの学生だからこそ、ICUという大学だからこそ実現できたものである。これからも寮が、ICUの寮らしく発展していくことこそ、ICUをより強めることになるのだろう。

[1] 土地購入費用は日本での募金により、建物建設は米国での募金により賄われることとされた
[2]『週刊朝日』1957年3月24日号
[3] 国際基督教大学学生会（1957）『The ICU 1956-57』、p.54
[4] 前掲書
[5] 並木浩一（2011）「あの寮生　いま　想う」ICU第二男子寮OB会『犬狼会かわら版』2011年12月15日　創刊号
[6] 主に他寮に対して、多くの寮生が参加して一緒に行ういたずら
[7] 大学の予科として教養教育を行う学校として、1919年の第二次高等学校令で改組整備され、1950年まで存続。男子校。旧制高校の入学者は一部の難関学部を除き、ほぼ全員が無試験で大学に進学できたことから、受験勉強から解放され、バンカラと呼ばれる独特の文化と自由を謳歌した。また全国各地から学生が集まることから寮が設置され、寮歌、ストームなどの寮文化が見られた。1950年の廃止後は、その多くが国立大学の教養学部などの学部となった
[8] 国際基督教大学学生会（1957）『The ICU 1956-57』、p.56
[9] 三好正夫さん（9期）の話による
[10] 旧寮寮生で、留学後にグローバルハウスに入った人が存在する
[11] 春原頌子さん（49 ID05）の話とALUMNI NEWS VOL.121 Mar.2014, p.12

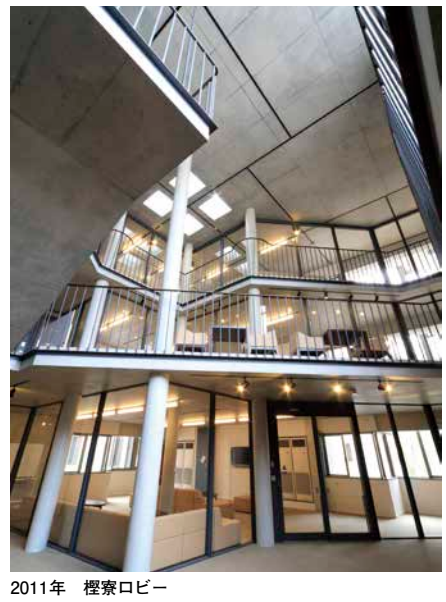
2009年　第一男子寮居室

2011年　樫寮居室

1980年代　岡田杯

1997年　第一男子寮

2009年　第一男子寮洗面室


2011年　樫寮ロビー

左から 1986年　寮祭／ 1987年　春祭り／ 1997年　第一男子寮／ 2014年　欅寮

寮を理解するためのキーワード

Isolated Crazy Utopiaとやゆされるほど、東京都内とは思えない豊かな武蔵野の面影を残すICU。四季折々の景色の変化は言うにおよばず、一日のときの流れの中でさえ、自然の美しさの移ろいに心を癒されるであろう。空間的にも時間的にも、学業もプライベートも、ICUの魅力のすべてを最大限享受している人たち、それが寮生である。そんなICUの寮生を理解するためのキーワードを、開学後間もないころに寮生だった同窓生、80-90年代に寮で生活していた元寮生、そして新寮で生活する現役寮生へのインタビューから集めてみた。

文：樺島榮一郎、神内一郎、小熊由美子（本誌）、取材協力：山岡清二（6）、土屋隆一（7）、三宅利智（60 ID16/G2018）、東原安由子（62 ID18）、ディセーン留根千代（62 ID18）

【基本編】

朝がっき

栄養バランスに気を遣い、かつ安価に提供される学食の朝食メニュー。がっきは学食のこと。寮生の朝は遅く（これは昔も今も変わらない）、8時50分に始まる一限の授業に出席するのに、8時30分に起きる強者もいるため、「朝がっき」をとる寮生は実は少ない。また新寮（欅寮、銀杏寮、樫寮）では、フロアごとにキッチンが備え付けられているため、朝食をつくり、きちんと食事をして授業に向かう寮生もいる。

ごはんを作ろうの会

新寮に住む男子寮生による、その名の通り、ごはんを作る会。旧寮よりもはるかにきれいなキッチンのある新寮では、このような会が生まれやすい。また、留学生が伝授してくれる各国料理の会などもあり、新寮では、寮生同士で調理をし、食事を楽しむという風景が見られる。

スタディルーム／ラウンジ

各寮にある勉強部屋とラウンジは、夕方以降は勉強する寮生でいつも満杯である。通学生は図書館で勉強するのに対し、寮生は主に寮のスタディールームやラウンジで勉強するのが特徴だ。

門限

平日は午後10時半、週末は11時という時代が長い。女子寮はセキュリティーの関係もあり、冷徹に玄関が閉じられた。大学のバス停から寮までの距離をどれほど恨めしく感じたことか。携帯電話がない時代は、裏庭から同期の部屋の窓に石を投げてこっそり開けてもらったことも。男子寮の門限はあってなきがごとし。2010年代の旧寮・新寮時代に午後11時半になったが、それを過ぎると入ることも外出することもできなかった＝Rock Out/Rock In＝時代も。これを破ることをPrison Breakと呼んでいた。現在は午前零時までとなっており、外出も記帳すれば可能。新寮はカードキーがないと入れない。

インフォメルーム＆インフォメ当番

玄関横のインフォメーションルームで待機し、訪問者、宅配品、電話を取り次ぐのがインフォメ当番。寮生全員で持ち回り、朝9時ごろから門限までを60〜90分単位で割り当てる。電話を取り次ぐ時、異性からの電話は、「お電話です」と、「お」を付けて、同性からの電話は「電話です」と伝えるのが基本ルール。携帯電話・スマホが普及した今からは想像し難いが、1990年代後半でも寮には固定電話が二台しかなかった。そのうちの一台は、就活用電話（＝緊急電話）として、特別な時期にだけ使われるので、通常使われる電話は一台だけ。現在はインフォメルーム＆インフォメ当番はなく、寮母さんがその役目を担っている。

風呂当番（風呂ボイラー当番）

共同生活には必ずある義務の一つ。風呂を掃除し、ボイラーをつける。風呂のボイラーをつけ忘れると、水風呂・水シャワーに入ることになるので他の寮生から大ブーイングとなる。50年代はボイラー当番ではなく、風呂焚き当番。掃除や準備は大変だが、大きなお風呂での入浴は、寮ならではの楽しみでもあった。ちなみに、風呂以外にも、当然、トイレ掃除当番、キッチン当番があり、60年代にはクリーニング当番（自分のクリーニング代が無料になる特典付き）などもあった。なお、新寮はシャワールームのみで、浴室はない。LGBTにも配慮した取り組みの結果である。一方、新々2寮には浴室が作られる予定で、今から楽しみにしている寮生も多いと聞く。

寮母さん

寮には寮母さんがいる。ただ寮生と寮母さんの関係は、時代や個人によって異なる。恋愛の相談や、集団生活の悩みを聞いてもらうなど、文字通り母親のような存在であったり、寮母さんが聖書の時間を設けて学生に朗読させていた寮もあった。また、春になると、タケノコご飯を作ってくれたり、風邪をひくと、お灸してくれる寮母さんもいた。現在は、寮の「管理人」という側面が強い。

寮長、フロア長、ポッド長

寮には寮長・副寮長・各委員長がいた。決め方は寮によりさまざま。立候補、投票、合議制など。ちなみに第二男子寮だけ寮長を「大統領」と呼んでいた。寮長は文字通りその寮の顔。新入生にとっては寮長こそが寮のイメージ。寮の規模が大きくなった現在は、フロア長が寮長のような役目を担い、寮全体の寮長はいない（新寮スタート時にはあった）。また「ポッド長」という、フロアのユニットごとの役職もある。

各委員会

寮には委員会があり、例えば文化委員長（活動委員と呼ぶ寮も）は、イニシエーション、ボール、寮祭など年中行事の中核を担い、その寮のキャラクターづくりを担った。その他にも労務委員、生活委員など。新しい委員として、規模が大きくなったそれぞれの寮の連携を促進する委員「新寮委員」がいるのも時代を写す。

係

寮長やフロア長のような役職ではないが、寮にはさまざまな係が存在する。最近はセプテンバーの寮生が増えてきたことから「セプテンバー係」、最新の『週刊少年ジャンプ』を確実に確保する「ジャンプ係」、不要な電気を消し、節電に努める「電気消し係」などが設置されている寮もある。

【年中行事編】

イニシエーション／ 4月

60年代初頭から続く、新入生に課せられる「通過儀礼」で、入寮後一週間行われる。寮ごとにそれぞれ衣装と音楽が与えられ、それに合ったダンスを数日で覚える。衣装は寮を出る際には必ず着用し、授業でもそのまま。授業に行く際は整列し、おかしな歌を歌いながら歩かなければならない寮もあった。期間中はほぼ毎晩、新入生が先輩に引率されて他の寮に出向く「寮まわり」が行われ、新入寮生が紹介される。最終日は、お昼休みにバカ山で、全校生を前にして全寮が順番に踊りを披露。これにより、自分が○○寮生であることを自他ともに認識する。寮の先輩たちが、まだ見ぬ新入生への思いを込めて音楽を決め、振りを作り、衣装を手作りしている姿を思い浮かべると感謝でいっぱいになる。第一男子寮は「エイトマン」、第二男子寮は「ぎんぎら」という踊りが伝承されており、これを覚えることなく寮生になることはできなかった。

ビューティーコンテスト

第一男子寮の独自の伝統。新入寮イニシエーションの最後を飾る。現在で言うところのコスプレ大会であるが、全くビューティーではない。5月の連休前の金曜日の夕方、大学食堂の半分を貸し切り、4月と9月に入った新入寮生が、お化粧と女装で美しさを競い合った。コンテスト後、女装のまま、バスで三鷹駅へ。三鷹駅で最後尾から電車に乗り込み新宿駅に着くまで、ペアの先輩と腕を組んで先頭車両まで歩いていく。その後はディスコへ。最も恥ずかしいのは、どシラフで女装の後輩と腕を組んで歩いている先輩であることを、次の年に知る。女子寮生にとって、彼らがブラジャーを、どこで、どんな顔で購入していたのかが興味津々。60年代初期に始まった。

ボール

寮を開放して開催するダンスパーティー。夕方から門限まで行う。実施時期は不定期だが、4月の入寮の際、12月のクリスマス、翌年3月の卒寮の際には必ず行われ

1997年　第一男子寮キチネット

2009年　第一男子寮キチネット

2014年　欅寮　キッチンはIHコンロ完備

炊飯器持ち込みでヒーローに
開寮まもないころの話

開寮まもない時代にも、寮で自炊する者はいた。当時はまだ電気炊飯器が出回り始めたばかり。超高級品だった時代だ。その超高級品を、寮生の一人が実家から拝借して、寮に持ってきたという。言うまでもなくその寮生はヒーローとなり、電気炊飯器は寮内で”婿入り道具”と呼ばれることになったそうだ。

2014年　銀杏寮イニシエーション

1985年　第二男子寮から第四女子寮への風船ストーム

た。寮生ではない学生も参加したが、そのほとんどは寮生。寮の飾り付けからライティング、音楽のリミックスまですべて寮生が行う。カセットテープの時代に音楽をリミックスするのは文字通り徹夜。つなぎ部分に「ボツッ」という音が入ってもご愛嬌。テープ片面（だいたい45分）の終わりにバラード系の曲が入っており、若人にとって楽しい時であるとともに、寮生の恋愛事情が透けて見える時間でもあった。ちなみに今、ボールはない。

吉祥寺フォトラリー

4月に開催される、新しいイベント。6～7人のグループに分かれ、あらかじめ決められたテーマに沿って吉祥寺で写真を撮影するというもの。新入寮生にとっては、ICUキャンパスから最も近い「都会」の生活を味わいつつ、友情を育んでいくという趣向だ。

新寮生ツアー

先輩たちは厳しい課題を与えるだけではなく、新入寮生が入ってくると必需品となる自転車の購入のアドバイスや、近所のお店事情などを教えてくれる「新寮生ツアー」も実施する。

細木杯と岡田杯（男子寮スポーツ対抗戦）

細木杯・岡田杯とも男子寮によるスポーツ対抗戦。細木杯はラグビー（春、5月ごろ）、岡田杯はサッカー（秋、10月ごろ）。両方とも前年度の2位と3位がまず戦い、勝者が前年度の優勝者と戦う。細木、岡田ともに優勝カップ購入資金を出した人の名である。この2つの対抗戦で優勝するかしないかは、男子寮生にとって非常に重要な意味を持った。このため、新入生の寮決めの際には、ドラフト会議さながらにサッカーの得意な学生をわれ先に入寮させようとする力学が働くこともある。

寮祭

ICU祭と同日開催。男子寮が一般の人にも開放される。男子寮は、いつでも入ることができたが、公式には、この日だけが一般への開放日。当日は各寮・各部屋（3人～4人）で、食べ物を出したり、企画（例：パイ投げ、野球拳など）をしたり。この時、各寮・各部屋は、女子寮生にお手伝いをお願いするのだが、結果としてモテ度や呼ぶ力が露わになる傾向があり、若くして、モテという側面における自分の力量を知る機会ともなっていた。また、旧D館の舞台で、各寮が演劇からダンスまで、さまざまな催しを披露した。今の新しい寮祭のメニューは、アイスじゃんけん@バカ山。じゃんけんをして最後まで残った勝者は、愛の告白をして、おごってもらったアイスを食べるというもの。

ストーム

他の寮に秘密裏に仕掛けるサプライズ。「シャワーにインクを仕込む」「トイレのボールの中に金魚を放す」などといったいたずらから、「雪の朝、カーテンを開けると、寮の庭にたくさん雪だるまがたたずんでいた」「朝起きると広い共有リビングが、胸の高さまでの色とりどりの風船でいっぱいになっていた」というハッピーなものも。男子寮が女子寮に行うストームのパターンの一つが、布団に包まれた寮生を女子寮に置き去りにするもの。布団をはがすと何と全裸！ちなみに、アメリカの大学でも50年代からpanty raidの名前で行われており、極めてインターナショナルな若者文化を遅れることなく取り入れていたその時代の先輩たちに敬服する。今、ストームも形を変え、岡田杯前のエールの交換のようなものになっている。

セレナーデ隊（音楽隊）

男子寮生が門限後の女子寮の庭で、アコースティックに音楽を送るもの。ギターとボーカルという2～3人の構成が主流。ベランダから聞く女子寮生が「これは私のため？！」と思ってしまうのも致し方ない。終演後は、拍手とともに、お花やお菓子を投げる。また、クリスマスの時期、聖歌を歌うバージョンもある。この時だけは、大学寮だけでなくICU高校の女子寮まで出向き、歌ってくるのが男子寮生の年1回の楽しみでもある。これも2週間ほど前から厳しい練習が行われた。

部屋割り

部屋割の変更は寮によって異なるが旧寮は年に一度。同じ学年の人とは原則、一緒にならない。寮設立当初は4人部屋が主だったが、年々少なくなっていく傾向にある。部屋は4年生が卒業前に決定する。部屋割りのために行うアンケートはかなりシビアで「一緒になりたくない人」や「騒音・散らかり度、生活時間帯」などの優先順位も出してもらう。4年生は想定外な回答に驚きつつ、できるだけ全員がハッピーになるよう頭をひねって部屋を決定し、アンケートを破棄し記憶は墓場まで持っていく覚悟を腹にねじこんで、酒で締める！

1987年　ボール

1997年

1997年　第一男子寮のビューティーコンテスト

1987年　細木杯

元寮生が語る、寮とは？ 寮で得たものとは？

寮とは？

● ダイバーシティーの面白さや大変さを知った場所。価値観がまったく違う人間と分かった上で、一生の友人になり得る幸運を提供してくれる場所。

● 親元を離れてすぐに一人暮らしをしたら堕落するかもしれないところを、うまく自由と節度のバランスを保った生活が送れるように支えてくれた場所。

● 大学で一番の安心できる居場所（＝家）であり、刺激の源であり、人との出会いの基盤であり、いつまでも懐かしく思い出すもの＝青春そのもの！

寮で得たものとは？

● 異文化に対する感覚。外国人や外国に対する壁が低くなった。

● 一人で生活していては知りえなかった食文化、音楽、遊び方、寮の行事を通して、何も知らなかった自分がいろいろと幅を持っていくことを体感した。

● 外国人だけでなく日本人も含めて、価値観、生活習慣、文化背景の違いの大きさに驚がく。当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかったことに気づき、こうあるべきという概念は薄れ、ある意味、楽になった。

●「ありがとう」と「ごめんなさい」を言うべき時に言えるようになった。困ったときに、素直に助けを求めていいことを知った。

● 自分の考えや気持ちをはっきりさせ、責任をもって「本音」を伝える必要性を学んだ。ごまかせない距離で生活しているので。

●「自分」という存在が大勢の他人と生活していくことで明確になっていくプロセスを体感した。自分の強みや弱み、個性をいやおうなしに知ることで、人としての自信や安心を得た。

● 家族以上に近い距離で一緒に生活し、4年間、共有することで、今までの友人とも家族とも違う存在を得ることができた。一生モノ！

新学生寮に込められたICUの教育理念

2017年4月にオープンする予定の新学生寮、楓寮と樅寮（もみのき）。その建設過程で、大学と学生、卒業生による話し合いが行われ、コンセプトを育んできた。過去60年の歩みの中で培われてきた教育寮の伝統を受け継ぎながらも、新たな姿を模索する“未来の寮”について、大学と卒業生に思いを聞いた。

文：森川幹人（本誌）

内庭完成予想図

2016年10月21日、柔らかな秋の光に包まれたキャンパスを訪れると、翌日に控えたICU祭の準備に、学生たちが忙しく動き回っていた。チャペルに向かえば前方に巨大な建築現場が見えてくる。近づいていくと、張ってあった紙には「新々2寮建設予定地、2017年4月入寮予定」と書かれていた。その文字の下には、小奇麗な寮の完成予想図が見える。かつて第二男子寮があった場所だ。時代に合わせて、キャンパスも姿を変えていく。

未来を見据えた新しい寮

新しい寮は、5階建ての楓寮と7階建ての樅寮。現在、キャンパスには8棟の寮があり、約600人の学生が生活している。新学生寮2棟の定員は320人。全寮の学生数を合わせれば約900人となり、全学生の約3割に当たる。これはICUが実践する教育において寮が大切な存在であり、なるべく多くの学生に寮生活を体験してもらいたい大学側の意向が表れている。

ICUは21世紀のリベラルアーツを実践するにふさわしいキャンパスの設計に向けた「キャンパス・グランド・デザイン」を策定した。その設計を担っているのが、日本設計と隈研吾建築都市設計事務所だ。隈研吾氏は2020年東京オリンピックのメーンスタジアムも設計する世界的建築家で、自然と調和するように時間とともに変化していく建築を提唱する。

学生部長の布柴達男教授と、学生サービス部長の岸本誠さんによれば、新学生寮には学生が主体的に文化を育んでいけるよう願いが込められている。一つは学生が寮を主体的に運営しながら学んでいくこと。もう一つは、寮の一部が通学生を含む全学生に開かれた存在となり、学生が交流しながらメッセージを発信していく場所になること。

新学生寮それぞれの2階以上には、楓寮なら4つ、樅寮なら6つの居住フロアがあり、各階に32人の学生が暮らす。それぞれのフロアが一つの単位となり、寮会などを通じて学生自身が寮生活を運営していく。基本的に男女はフロアごとに別れており、1年生から4年生までが8人ずつ入居する。一人部屋と二人部屋があるが、卒論作成や就職活動などを抱える4年生が主に一人部屋を使うことを想定している。各フロアの中心には、キッチン、リビング、学習室、シャワールーム、ランドリーなどの共同空間があり、学生同士の対話を自然と促す仕組みだ。

2つの寮の1階には「6つのセミナールーム」や「共同リビング＆ダイニング」が作られ、通学生や教員も利用可能だ。寮が寮生だけの閉じられた場所になるのでなく、大学全体に開かれ、新しいメッセージを発信できる拠点へ成長していくことが期待されている。例えば、講演会、勉強会、寮のイベントなどを開催し、寮生が通学生、先生方、学外に向けて寮の理念を発信する場になる。

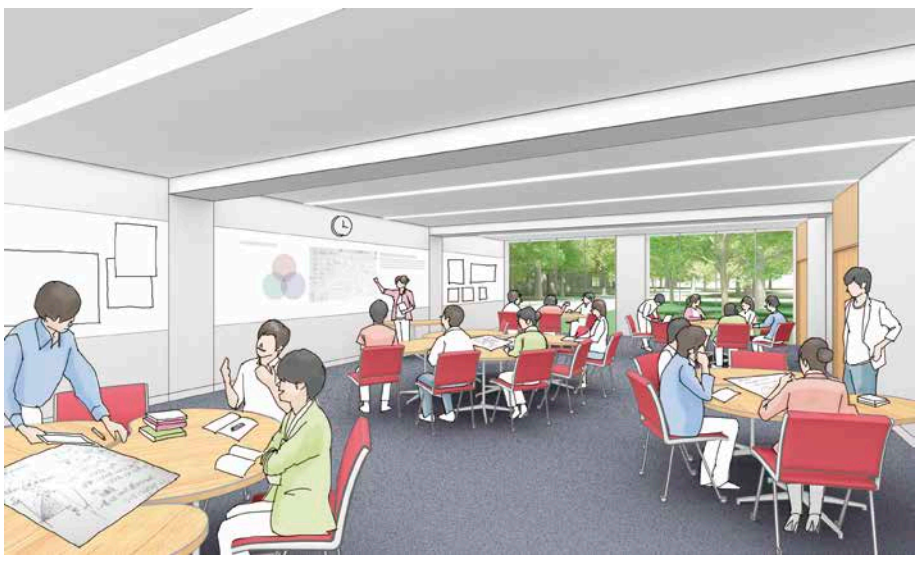
計画までの長い道のり

新しい寮の基本設計が出来上がるまでには紆余曲折があった。2010年ごろ、老朽化した第二男子寮を取り壊し、新しい寮を建てることを大学が計画したことに対して、第二男子寮卒業生や学生を中心に反対運動が起きたのだ。愛着のある寮がなくなることや、当時はセキュリティチェックが厳しすぎると言われていた新3寮（欅寮、銀杏寮、樫寮）のあり方に対する批判など、理由はいくつかあった。2013年には「ICU教育寮の将来を考える会」が発足。寮のあり方に関心を持っている人が多くいることを大学側に伝えた。会のメンバーである松村光治さん（36 ID92）は、当初は寮の建物がなくなることへの感情的な反発が強かったと振り返る。その後、卒業生や学生自身が話し合うなかで、「大切なのは建物自体ではない。本当に守るべきなのは、教育寮の考え方であり、寮というコミュニティーだ」とスタンスが変わっていく。大学側は学生や卒業生と話し合いを重ねながら、ICUの寮の理念を明文化し、理念を実現するために大学と学生と卒業生が定期的に協議会をする体制を整えていった。その結果、個人の居室空間よりも共有スペースを広く取ることや、寮をフロアごとに分けて小さな単位で運営していく枠組み作りなどのアイデアが、新学生寮のあり方に反映されていく。

卒業生や学生がアクションを起こし、大学の運営に大きな影響を与えたことは画期的なことだ。ただ、大切なのはこれからではないかと、松村さんは考えている。ハード面が整ったうえで、どのように教育寮の理念を現実のものとしていくのか。その工夫の一つとして、欅寮、銀杏寮、樫寮、第二男子寮で暮らした経験を持つ上級生が新学生寮に入ることで、教育寮の理念がスムーズに伝えられていくような試みもされている。寮の文化を育てるのは時間がかかる。失敗を重ねながらも学生自身がイニシアチブを取って作り上げていくしかない。

現在は、新学生寮の準備委員会を設け、どのような寮にしていきたいのか、大学、学生、卒業生が定期的に話し合いを続けている。かつて学生紛争の時代に、大学と学生寮の間には大きな隔たりが生まれた。現在でも両者の間には壁が立ちはだかることもあるが、社会に出た“かつての学生”である卒業生が加わることによって、三者は新しい関係をつくっていこうとしている。

松村さんは今回の寮の運動に携わるなかで、いろいろな世代の“寮生”に話を聞いた。彼らの年齢は20歳代から70歳代までとさまざまだが、異質な者同士がぶつかり合う中で成長していくことと、一生の仲間ができることに寮のよさがあるという意見は共通していたという。今回、新しい寮を作るに当たり、さまざまな卒業生や学生が積極的にかかわり、大学と向き合いながら変化を起こしていった。それは「多様な価値観を持つ者が共同生活することで人として成熟していく」というICUが考える寮のあるべき姿を、新学生寮を生み出す過程で実践したと言えるのではないか。



セミナールーム完成予想図

新寮モデルルーム・２人部屋完成予想図

「ICU教育寮の将来を考える会」の教育寮憲章

- 共同生活を通じて学び合う「共育」寮
- 多様性を尊重する寮
- 人と人を結びつける寮
- ICUと社会に貢献する寮
- 責任を分担し、皆で育てていく寮

1 今時のICU卒業生の就職先をまとめてみた

就職人気企業ランキングは時代の写し鏡。その時代、その時代の企業の勢いを象徴するものです。しかしながら、プレジデントオンラインの就職人気企業調査(2016)と比べてみると、ICU卒業生の就職進路状況は世間のそれとちょっと違っているようです。

ICU卒業生の就職先（2013〜2015合計）

1位	楽天	23
2位	日本IBM	19
3位	ワークスアプリケーションズ	12
4位	デロイトトーマツグループ	11
4位	大日本印刷	11
6位	みずほフィナンシャルグループ	10
7位	JTBグループ	9
7位	三菱商事	9
9位	SMBC日興証券	8
9位	三菱東京UFJ銀行	8
9位	IHI	8

プレジデントオンライン調べ就職先（2016）

1位	ANA
2位	JAL
3位	伊藤忠商事
4位	資生堂
4位	オリエンタルランド
6位	JTBグループ
7位	味の素
8位	森永製菓
9位	サントリー HD
10位	三菱東京UFJ銀行

社内の行動評価（人事評価）を見ても、ICU卒業生は「物怖じしない」「社交的」「困難から逃げない」「バランス感覚がある」などの評価が浮上してきます。
——大手損害保険会社

リベラルアーツを通じ、自らの「軸」を築く土台を学び、インタラクティブな議論を通し主体性を身につけることができるICUは、非常に素晴らしい環境だと思います。
——大手自動車メーカー

常識をどんどん覆していく力に期待している。
——大手システムインテグレート企業

〝語学力+α〟の部分が大切。ICUのグローバルな環境での「下積み」期間は非常に魅力的です。
——大手総合商社

ICUの学生たちは非常に自由な発想を持ち、考えるスケールが非常に大きいと感じる。
——外資系製薬会社

2 企業人事担当者がICU卒業生を評価する理由のまとめ

幅広く学び、組み合わせることを学ぶ、その経験が力になる。
——大手総合重工業メーカー

ICUの今を知

「Naverまとめ」に代表される「まとめ記事」型のメディアが人気です。「まとめ」という記事スタイルの分かりやすさ、そしてメジャーメディアが取り組まない切り口のユニークさがその人気のポイントです。世間からは、分かりにくいというご意見をいただくことも多いICU。今時なる「まとめ」スタイルで、その「今」を切ってみました。

文：福田敏也、岡本早織、千葉颯丸（本誌）　写真：上遠岳彦（国際基督教大学講師）

3 ICUに生息する野生動物をまとめてみた

ニホンアナグマ
本州、四国、九州地域の里山に生息するイタチ科の哺乳動物。都会に住み着く例は珍しい。

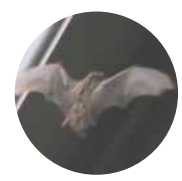
タヌキ
日本の山野に広く生息するイヌ科タヌキ属の哺乳動物。都会でも多く生息が確認される。

ハクビシン
ジャコウネコ科に属する哺乳動物。その名の通り、額から鼻にかけて白い線があるのが特徴である。

アライグマ
ラスカルで有名なアライグマ科の哺乳動物。北米原産の外来動物。

アカネズミ
低地から高山帯までの森林や田畑のあぜなどに生息する小型ネズミ。日本固有種。

アズマモグラ
モグラ科に属するモグラの一種。主に箱根の山から北に生息する。



アブラコウモリ
ヒナコウモリ科に属するコウモリの一種。日本に生息するコウモリでは唯一、家屋を棲家にするコウモリ。

帰国子女を受け入れる。そんな大学は今時、日本全国にあります。何をもってICUは、自らを「International」と 表明するのか。ICUの「International」は他大学のそれと何が違うのか。その理由、根拠と言える項目を並べてみました。

4 ICUが「インターナショナル」といわれる理由のまとめ

50 カ国　世界約50の国と地域からの留学生を迎えている。

141 大学　世界51の国と地域、141大学に留学可能。

1:2　外国人教員の多さ（外国人教員：日本人教員＝1：2）

1/5　全学生の約1/5が学生寮で外国人留学生と生活を共にしている。

62.1 %　卒業までに6割強の学生が留学を経験する。

450 人　毎年450人以上の学生が留学プログラムに参加。

92.8 %　教員の92.8%がInternational Faculty（外国人教員＋海外大学で学位を取得した日本人教員）。

5 ICUの「日本初」をあつめてみた

日本初の リベラルアーツカレッジ

リベラルアーツカレッジとしてのスタートも日本で最初の試みでした。リベラルアーツとは、文系、理系の区別なく幅広い知識を得た後に、専門性を深めることで、豊富な知識に裏打ちされた創造的な発想を可能とする教育です。

日本初の 蔵書自動配架システムの導入

コンピューターによる管理のみならず、蔵書の配架までをすべてコンピューターで自動化する仕組み。ICUはその本格システムを導入した日本で最初の大学です。

日本初の 「国際」を冠する大学

ICUは、1953年『国際的社会人としての教養をもって、神と人とに奉仕する有為の人材を養成し、恒久平和の確立に資すること』を目的として、日本で初めて大学名に「国際」を冠する大学として献学されました。

日本初の 日本語と英語の2カ国語のヒアリング試験を採用

入試に聴解力試験を他大学に先駆けて導入したのもICUなら、近年は日本で初めて日本語と英語の2カ国語のヒアリング試験を導入して話題になっています。

日本初の 自由な専攻選択システム

専門分野を決めるのは2年次終わり。それまでは、自分の志望や興味に合わせて、理系・文系にかかわらずさまざまな分野を幅広く学ぶことができます。そこまで自由な仕組みは日本初の試みです。

日本初の ジャーナリスト宇宙飛行士

1966年に卒業した秋山豊寛さんは、世界で初めて宇宙に行ったジャーナリスト（TBSの言う“宇宙特派員”）です。

6 ICUがユニークだといわれる理由のまとめ

ICUと言えば「なんかユニークな大学でしょ」という認識はあるものの、その具体例となると、すぐに答えられないのが現実かもしれません。というわけでまとめてみました、ICUがユニークと言われる理由を。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

全員が教養学部アーツ・サイエンス学科に入学し
2年次の終わりに31の専門分野から専攻を自由に選ぶシステムは、
日本でもとてもユニークな仕組みとして評価されています。

学生数は全学合わせて約3000人。 少人数教育は、ICUの献学当初からの徹底した方針です。

先生１人に学生18人。
顔の見える対話型の授業が基本です。

ICUは、春・秋・冬の３学期制。
4年間で12回の科目選択
の機会が設けられています。

学生一人あたりの図書館での年間貸し出し冊数は50.6冊。
全国平均のなんと **6倍** の多さです。

7 ICU図書館にまつわる数字をまとめてみた

1 位
2017年版朝日新聞社刊『大学ランキング』図書館の部で全国１位。

79万1747 冊
2015年現在の総蔵書数

679 人
2015年1日あたりの入館者数

525 席
ICU図書館利用者用座席総数

1 号
コンピューターによる蔵書の自動配架システムを導入した日本で最初の大学。

る10のまとめ

8 ICUだけで流通する学内用語をまとめてみた

エイプリル/セプテン：April Student（4月入学生）/September Student（9月入学生）
トランスファー：Transfer Student（転入生）
シープロ：SEA Program（1、2年生向け短期留学プログラム）
　　夏休み中にさまざまな国に行くことができる。
エクスチェンジ：Exchange Program（3年次の交換留学プログラム）
セクラン/セクコン/セクトラ：Section Lunch（セクションでお昼を食べること）
　　Sectionコンバ（セクションで夕飯を食べに行くこと）
　　Section Travel（セクションで旅行に行くこと）
リトリートマジック：Retreat Magic
　（大学が主催する1年次の春の新入生交流1泊旅行でカップルができること）
がっき：学生Kitchen（食堂のこと）
シンディー：新D館（D館横に作られた新しいD館）
オスマー：図書館の南側にあるパソコンや学習室があるエリア。2000年オープン。
　　課題に取り組む学生が多く利用。
メルボ：Mail Box（学生1人ずつに与えられるICU独特のメッセージボックス）

9 ICUから進学する主要大学院をまとめてみた

（2013~2015合計）

もともと大学院進学率が高いと言われているICU。リベラルアーツの4年間を終了したら、専門教育は大学院で。その伝統は今も健在です。近年は、圧倒的に東大への大学院進学が目立っています。総合文化研究科や教育学研究科、公共政策大学院、新領域創成科学研究科などが最近の人気です。

1位	東京大学大学院	80
2位	国際基督教大学大学院	45
3位	一橋大学大学院	20
4位	University of London	10
5位	京都大学大学院	9
6位	筑波大学大学院	8
7位	早稲田大学大学院	5
7位	上智大学大学院	5
9位	名古屋大学大学院	3

10 学生新聞 The Weekly GIANTSの記事で振り返る、2016年度上半期、各月の学内マストトピックスまとめ

APRIL
「さようなら、第二女子寮」

50年以上の歴史を持つ第二女子寮が4月に閉寮となる。培われてきた文化や風土が失われてしまうことが惜しまれつつも、老朽化や耐震性の問題などから大学側から「建て直しはやむを得ない」という判断が下されるに至った。

MAY
「ICUにアイドルグループ誕生!?『メルティングぽっと』の実態を追った」

誕生したばかりの学内アイドル団体「メルティングぽっと」の活動を取材した。メルティングぽっとは武蔵境駅前で開催されたダンスフェスティバルへの出場を皮切りに、大型ショッピングセンターでのイベントや、大学対抗のアイドル系ダンスフェスティバル「UNIDOL」の予選に参加、活躍の場を広げている。

JUNE
「ICUのキャンパスはどう変わる? キャンパス・グランド・デザイン事務局にインタビュー」

大学当局は献学70年を迎えるにあたり、今後の60年を見据えたキャンパスプランとして「キャンパス・グランド・デザイン」を発表、意見交換会を開催した。大学の担当者は弊紙の取材に対し、建設が進む新々2寮（樅寮・楓寮）はもちろん、築70年を迎えた本館の建て直しも選択肢のひとつとして検討しているが、まだ決定事項ではないと述べた。

JULY
「リオデジャネイロ五輪の副審に決定! 山内先生に突撃インタビュー!」

ICUの保険体育科講師・山内宏志先生がリオデジャネイロ五輪でのサッカーの副審に選ばれた。山内先生は「ICUは国際性と多様性に満ちているので、審判をするうえでもプラスになっている」とICUの講師をする傍らサッカーの審判を務めることの意義を述べた。

AUGUST
「メールボックスの廃止を考える」

8/31（水）、学部長名義で本館一階に設置されているメールボックスの廃止の是非を問うアンケートが投稿された。ネットの普及によりメルボを使用する学生は近年減っているが、新歓期などには重宝している学生も多く、慎重な議論が求められる。

同窓会会長と今期の副会長を紹介

2016年4月、ICU同窓会は5人の新しい副会長を迎え、新体制となった。前期から続投の副会長4人、同じく続投となる木越純会長と共に、同窓会活動をけん引していくことになる。副会長9人を紹介するとともに、木越会長に同窓会の現状とこれからを聞いた。

会長インタビュー文・写真：安楽由紀子（本誌）、副会長写真：鈴木律（23 ID79）

会長

木越純

KIGOSHI, Jun（27 ID83）

1983年、卒業。東京銀行（現三菱東京UFJ銀行）に入社。ICUの先輩と出会い結婚、二女の父。94年から7年間ロンドンに駐在。2007年～2014年までJPモルガンに勤務し、現在はバンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ東京支店副会長。2014年4月から同窓会会長を務める。英国各地の保存鉄道を訪ね歩くほどの鉄道ファン。

さらに広がる同窓会ネットワーク

今期のテーマは「集って楽しい同窓会」「頼りにされる同窓会」「時には辛口ご意見番」です。

「集って楽しい同窓会」の中心は支部活動です。海外出張の合間に海外支部を訪ねる機会がありますが、現地に根付いた海外支部はICUならではのものです。国内では、昨年、香川支部が12番目の地域支部として設立され、東京近辺で働く若手を中心とした異業種交流会「丸の内Style支部」も設立2周年を迎えました。この他、Facebookから発展した「ICU女子会支部」のようなユニークな支部を含めこの2年余りで9つの新支部ができ、集いの輪が広がっています。

昨年10月のICU祭では、初めての試みとしてPeace Bell奨学生を招いたイベント「2016 ホームカミング『ICU Peace Bellスカラーを囲んで』」を大学と共催しました。Peace Bell奨学金は、同窓生のイニシアチブにより始まった制度です。「先輩がたの寄付によって受けた恩をトーチリレーのように次世代につなげていきたい」という奨学生の話に深い感銘を受けました。こうしたネットワーキングを今後も進め、いずれは院生や留学生にも広げていきたいと思います。

「頼りにされる同窓会」へ

2014年4月から2016年3月まで募集された桜並木再生プロジェクト「桜募金」では、同窓会理事評議員のほぼ全員約140人が呼び掛け人となってくださり、卒業生2000人以上が参加し、目標額4000万円を達成しました。「同窓会もやるな」と思わせる良い機会になりました。

ICU同窓会は準会員である在校生にとっても「頼りにされる同窓会」であることを目指しています。賞金総額100万円を提供し在学生の夢を応援する「ドリームコンペティション」や、在学生と卒業生がキャリアについて本音でセッションできる「キャリア相談会」は、ICU同窓会らしい企画として毎回好評を得ています。

2015年と2016年に、同窓会有志が企画し、村上陽一郎名誉教授をお招きして開催した「同窓会リベラルアーツ公開講座」では、学外者からも多数の参加者を集め、同窓会としての対外発信の良い試みとなりました。

同窓会の財政問題、V字回復

このような同窓会活動の活発な展開の一方で、2016年は財政が大きな課題となりました。

「アラムナイニュース」の発行や支部活動支援、学生へのサポートなど同窓会の運営費は、入学時、あるいは卒業時に納入いただく5万円の終身会費によって支えられています。例年600人ほどいる新入生のうち7～8割の方が、卒業時までに納入いただいておりましたが、2012年ごろから収入が減少。2014年、2015年には赤字決算に転落してしまいました。

このような状況を踏まえて2016年度は緊縮財政を敷き、全体の支出予算を2割削減、「アラムナイニュース」の発行も年2回から1回に減らしました。その傍ら原因究明に努め、同窓会からのメッセージや新入生・在校生へのアプローチ方法の大幅な見直しを行いました。

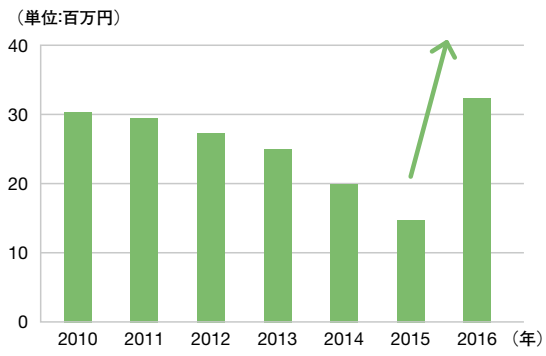
活発な同窓会活動の展開のお陰で同窓会の認知度が上がってきたことも貢献したと思います。同窓会収入は2015年の約1500万円から2016年度には約3000万円に急回復。おかげさまでアラムナイニュースの発行も、2017年度より年2回に戻すことができることになりました。

この流れを定着させるために、同窓会活動を更に活性化させ、アピールの機会をとらえて同窓会の認知度を高めていくことが王道だと思います。

母校の発展を同窓生も担おう

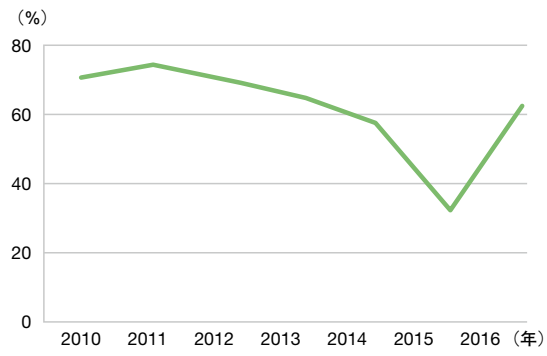
昨年2月に大学のWebサイトで公表された「キャンパス・グランド・デザイン」については、同窓生の間でも大きな反響を呼びさまざまな意見が出ています。この件に関し、教職員や在校生だけでなく同窓生向けにも説明会を開くよう大学に働きかけ、2月25日にオープンフォーラムが開かれることになりました。これからのICUが建学の理念を継承しながら新しい時代に対応していくために、同窓生は「時には辛口ご意見番」として意見し、一方で賛同できるプランについては率先して応援していくことが重要だと思います。

私も57歳。バンカー人生30年以上となりました。年を重ねれば重ねるほど、グローバル・ビジネスにおいて、リベラルアーツやクリスチャニティが重要であると実感しています。1期生の大先輩から我が子よりも若い現役生まで、ICUファミリーに囲まれて築いた人脈はかけがえのないもの。みなさんにもこの輪に加わり、母校を盛り上げていってほしいと願っております。



（2016年は10月現在）

同窓会の会費収入



新入生の会費納入率

総務部担当副会長

櫻井淳二

SAKURAI, Junji（28 ID84）

同窓会活動が円滑に行えるよう、インフラ整備に努めます。

財務部担当副会長

佐藤久恵

SATO, Hisae（29 ID85）

同窓生の皆さまがつながる、ひろがる活動を財政面でサポートするよう努めます。

組織部担当副会長

山脇真波

YAMAWAKI, Mana（50 ID06）

同窓会は人材の宝庫。同窓生同士のつながりや絆づくりをお手伝いします！

事業部担当副会長

真鍋大治郎

MANABE, Daijiro（46 ID02）

「こんなグッズがあったらもっと楽しいのに…」というアイデアを形にします！

広報部担当副会長

神内一郎

JINNAI, Ichiro（33 ID89/G1992）

同窓生、大学、在学生間のコミュニケーション基盤を構築します。

募金部担当副会長

長谷川 攝

HASEGAWA, Setsu（24 ID80）

同窓生の思いと愛を伝えていくトーチリレー募金、参加者の輪をさらに広げます。

IT部担当副会長

内村昌幸

UCHIMURA, Masayuki（33 ID89）

会員管理、コミュニケーション、情報発信などＩＴで、つながる同窓会活動をお手伝いします。

学生部担当副会長

國村有弓

KUNIMURA, Yuyu（55 ID11）（2017年1月就任）

ICUの現役生に対する応援団として、その活動をサポートしてまいります。（前副会長・鈴木涼子、53 ID09、2016年12月退任）

大学部担当副会長

宮武久佳

MIYATAKE, Hisayoshi（G1983）

大学と同窓会の良いブリッジ（架け橋）になることを目指します。

腰痛・肩こり・頭痛を改善したいあなたへ

ICU卒業生の佃隆とパートナーの佃美香が運営するファミリーカイロプラクティックでは、ただ単に痛みをとることだけでなく、予防医学の考え方を基に、総合的・継続的なケアを行います。出来る限り、薬や手術に頼らず、手技により脊椎の調整を行い、姿勢美人になっていただき、神経系の働きを活性化させ、「**100%の自然治癒力**」を手に入れるためのお手伝いをいたします。カイロプラクティックケアで期待される効果、期間、頻度、料金を明示し、より良いケア計画を立てるための時間をとり、私たちスタッフと貴方の2人3脚で、質の高いカイロプラクティックケアを進めて参ります。

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

お子様連れでも安心！キッズスペース完備しています！

ICU関係者の方来院多数！

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-24-7 平嶺ビル301号室

tel **0800-888-4270**（受付時間 / 毎日8:30〜20:00）
「ICUアラムナイニュースを見て…」とお電話ください。

web http://mitaka-chiro.com

この度、当院院長佃隆は2016年3月に
1日3回で、ねこ背がよくなる「姿勢の魔法」シャキーン!を上梓いたしました。

櫻井淳二副会長もツアーガイド

活動方針を語る木越純会長（右から3人目）と役員たち

同窓会評議員会・全体会
夏の一日、同窓生が一堂に

梅雨の中休みの日差しが爽やかな2016年7月2日、同窓会理事会に続き、2016年度の第1回評議員会が東ヶ崎潔記念ダイアログハウス2階の国際会議室で開かれた。議長、副議長、書記を選出したあと、新設支部として空手道OBOG支部（その後、玄徳会支部に名称を変更）を紹介。その後、議事に入り、木越純会長（27 ID83）が活動方針を説明した。2期目となる木越会長は「集って楽しい同窓会」「頼りにされる同窓会」「時には辛口ご意見番」と、3つの方針を打ち出し、同窓生の結集を呼びかけた。

文：新村敏雄（27 ID83）写真（左）：松島眞理（同窓会事務局）、（右）：岡田曜（51 ID07）

財政健全化を目指して

続く財務関連報告では、財務部担当副会長の佐藤久恵さん（29 ID85）が2016年度の収支見込みを発表。併せて、今後、同窓会の財政の健全化に向けて、終身会費の徴収を大学に委託するための交渉を進めていくことが報告され、続いて9つの部会の活動紹介、報告が行われた。

この日は、ピースベル奨学生（PBS）の1期生と2期生、それに、ドリームコンペティション（ドリコン）の金賞と銀賞の受賞者が来賓として参加。それぞれの代表が、PBSとして自分がなすべきことへの思いや、ドリコンに応募した際の苦労と、そこで差し伸べられた同窓会のサポートへの感謝などを語った。また今回はSkypeを通じて宮城県女川町の同窓生も参加した。

キャンパスツアーも

評議員会の後は、オプション企画として木越会長が自らガイドとなってキャンパスツアー。副会長の櫻井淳二さん（28 ID84）がガイドする図書館だけのツアーも同時開催された。前日の梅雨空から一転して快晴に恵まれ、泰山荘や、取り壊しを待つ旧寮、しゃれた外観の新寮や建設中の寮、さらに、土曜にもかかわらず特別にオープンしていただいた図書館の中も見ることができた。中には、自分が専攻した分野の本が詰まったラックを懐かしそうに眺めている同窓生の姿も見られ、卒業論文の話などに花が咲いていた。

午後4時からアラムナイハウスに場所を移し、2階で前任の理事・評議員や大学関係者もお招きしての「全体会」が開かれた。最初に、森本あんり学務副学長による祈祷。北城恪太郎理事長、日比谷潤子学長をはじめ、教員など来賓も加わって会場は和やかな雰囲気に包まれた。

1期生から現役生まで

あいさつに立った北城理事長からは「卒業後、ご活躍されたらぜひ『ICUの卒業です』とＰＲしてください」とのエールを、また、日比谷学長からは、数日前に終わった夏季卒業式で「『ICUでの学びを社会に還元してください』という言葉をお送りしたところです」というメッセージをいただいた。

今回は、1期生から現役生までと幅広い世代が参加し、年代を越えた交流を楽しんだ。恒例のラッフルでは、アナグマワインなど、おなじみのグッズが紹介され、そのたびに会場は大きな歓声に包まれた。

あっという間に予定の2時間が過ぎ、最後は天井に映し出された歌詞を見ながらICUソングを3番まで通して歌い、お開きとなった。

自然と遊ぶ、仲間と遊ぶ
多言語自然キャンプ
世界中に友だちつくろう！

小学生～大学生年代を中心に、多言語・多世代の人々が自然の中で活動し、国や文化の違いをこえて友情を育むプログラムです。

【国内キャンプ】（3泊4日・長野・小4～大人）
●雪の学校：雪の活動と多世代・多言語交流。
●Nature Camp: 夏山体験と多世代・多言語交流。

【海外キャンプ】（1週間前後・8月開催）
●アジア青少年多言語自然キャンプ＆ホームステイ
中1～大人。タイでの自然体験と現地家庭でのホームステイ。
●アジア青年多言語合宿＆ホームステイ
高1～大人。上海の研修施設での合宿と現地家庭でのホームステイ。

Multilingual Natural Immersion
どんなことばにも開かれた心を育てる

多言語を学ぶ意味
大和田康之（国際基督教大学１期生）
私がこれからを担う真のリーダーシップについて必要だと思うのは「多言語を話す」というスタンスです。多言語を話すということは、「違ったことば、価値観を持った人を自分の中に受け入れる」ということ、「寛容」ということです。それは自分が人間としてより豊かになることです。ヒッポではまず相手の母語を大切にしようというスタンスで多言語を育んでいます。そんな世界が広がっていくことに、ことばを学ぶことの本質的な意味があるのではないでしょうか。

●お問い合わせは、下記フリーダイヤルまたはホームページから

hippo 一般財団法人 言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ 0120-557-761 受付時間 平日9:00～17:30
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-2-10 青山H&Aビル3F
TEL.03-5467-7041 http://www.lexhippo.gr.jp/
ヒッポ 検索

Dream Competition 2016

「あなたは今、幸せですか?」

ストレートに学生に問われたら、あなたは何と答えますか?

12回目を迎えた「ドリームコンペティション(ドリコン)2016」。今年もICU生の夢の実現を同窓会が応援!
金賞は、寮の仲間で結成した「ひとゆり」の手へ。「世界一幸せな国」ブータンで現地調査を実施予定。「みんなで『幸せ』について考えたい」

文:鈴木涼子(53 ID09) 写真:白石亜樹(51 ID07)

最終審査を終えて

金賞を受賞した団体「ひとゆり」と木越純同窓会会長

同窓会主催の「ドリコン2016」の最終審査が2016年9月25日、アラムナイハウスで行われ、寮の仲間で結成した「ひとゆり」〈中島柚香さん(64 ID20)、今井友哉さん(同)、薄久保崚さん(同)、内田宇宙さん(同)〉の企画による「オンガッ ドルック ゲカップ ナア ガウェ〜私は今ブータンで幸せです〜」が金賞に輝いた。「あなたは今、幸せですか?」という問いから始まったプレゼンテーションが審査員の心に響いた。

「ドリコン」の愛称で親しまれているドリームコンペティションは、学生の夢を応援するために始まった同窓会企画。12年目を迎える今年は、12の個人・団体が応募。書類審査、および、1次面談のフィードバックを経て、6企画が最終審査に進出、それぞれの夢を審査員に語りかけた。

「幸せ」をブータンで調査へ

今年度の審査のポイントは①夢へのパッション②ICU生らしいユニークさ③自助努力による実現可能性④ICUコミュニティーへのインフルエンス――で、慎重な審査の結果、5団体に授与することが決まった。

金賞を受賞した「ひとゆり」は、「幸せとは何か?」という自分たちの疑問にこたえるため、ブータンに飛んで現地調査を行う。「大学に入学し、新たな人生の節目を迎えて、人生について考え直し始めたのがこの企画の発端です」と語るのは中島さん。調査後には、幸せについて皆で考えるワークショップを学内で開催する予定という。この企画は、ICUの代名詞である「クリティカル・シンキング」を体現したかのような探究心を浮き彫りにするとともに、1次面談のフィードバックを真摯に受け止めて、最終審査までの短い期間にできることを精いっぱい行ったあとをうかがわせ、夢へのパッションを印象付けた。

銀賞は、昨今の理系離れを食い止めるため科学実験の面白さを伝えたいと訴えたICUサイエンスクラブ「学内から始めるサイエンスブーム」が受賞。科学の真の面白さを皆に届けたいという純粋な思いが銀賞へと導いた。

銅賞は個人で応募した白川舞さん(64 ID20)が受賞。普段、口にしない秘めた思いを自由に話し合えたらという願いから企画された「You can talk to me honestly Tシャツ」。自分の考えや思いを書き入れたTシャツをきっかけに新たな交流が生まれたらという期待を込める。

社会的貢献度の高い企画に与えられるJapan ICU Foundation(JICUF)協賛の「デーヴィッド・W・ヴィクナー社会貢献賞」は、山中美有さん(62 ID18)の「ミャンマーと日本をつなぐ旅」が受賞。自身がミャンマーを訪れた経験から生まれた企画で、山中さんは、ミャンマーの学生たちを日本に招待し、両国の若者をつなぐミャンマー・日本未来会議を実現したいと夢見ている。詳細は、以下のJICUFのWebサイトにも掲載されている。http://www.jicuf.org/news-j/2016/10/25/icuw

そして、会場をダンスで華やかに彩ったICUメルティングぽっと(アイドル文化研究会)が同窓会会長から贈られる木越独歩賞を受賞。「日本のアイドル文化を幅広い人々に届け、ヒトとヒトをつなぐきっかけになれば、と願っている」という。

今回、残念ながら受賞に至らなかった企画も、いずれもユニークで、それぞれの思いが込められていた。今年の受賞団体の成功を見守りつつ、同窓会は今後も学生たちの夢の実現を応援していく。来年のドリコンの応募企画が今から楽しみである。

ドリコン2016入賞者一覧

金賞:30万円

オンガッ ドルック ゲカップ ナア ガウェ〜私は今ブータンで幸せです〜 / ひとゆり

幸せとは何かという人類共通の問いに対する答えを見つけるため、国民総幸福量(GNH)を国家の基本方針に取り入れているブータンで現地調査を行う。帰国後は学内でワークショップを開催し、ICU コミュニティーに対して幸せとは何かを考える機会を提供する。

銀賞:20万円

学内から始めるサイエンスブーム / ICUサイエンスクラブ

学内でS-Weekを開催し、身近に感じられる楽しい科学実験を通して、文系理系問わずICU生に科学の面白さを伝える。

銅賞:10万円

You can talk to me honestly Tシャツ / 白川 舞(64 ID20)

自分が普段、言えなかったり、話す機会のないことをTシャツに書き、それを着ることで同じ興味を持っている人を見つけたり、普段、かかわらない人と交流するきっかけを提供する。

デーヴィッド・W・ヴィクナー社会貢献賞:US$2,000

ミャンマーと日本をつなぐ旅 / 山中 美有(62 ID18)

民主化へ向け、日々、変化を続ける東南アジア最後のフロンティア“ミャンマー”。ミャンマーからの学生数人を日本へ招待し、ICUでミャンマー・日本未来会議を実施し、次世代を担う両国の若者をつなぐ。

木越独歩賞:5万円

ヒトとヒトをつなぐ、ユニドルICUメルティングぽっと / ICUメルティングぽっと(アイドル文化研究会)

帰国子女や留学生が多く、日本の女性アイドル文化があまり浸透していないICUにアイドルの魅力を広めつつ、地域イベントや外部イベントでは国際色豊かなICUの魅力を伝える。

キャリア相談会

就職活動の域を超え、「生き方」について先輩と考える

かつての就職相談会がパワーアップした学生向けイベントの「キャリア相談会」が、2016年12月10日、新宿エルタワーで開催された。リニューアル後3回目となる今年は、参加学生が100人を超え、協力した同窓生も60人以上。過去最大のキャリア相談会となった。

文：鈴木涼子（学生部担当副会長 53 ID09）　写真：岡村一輝（52 ID08）

同窓会が主催するキャリア相談会は、特定の企業について知る通常の就職フェアとは異なり、より大きな視野で仕事やキャリアをとらえ、先輩と共に在学生が語り合う貴重な機会。3時間半におよぶイベントでは、お子さまがいる同窓生が参加しやすいようベビーシッターを手配するなど、運営側も毎年、工夫を怠らない。当日は、7つの「テーマ」と、10の「業界」ごとにグループに分かれ、30分間のグループディスカッションが計4回。各グループに2～4人の同窓生が割り振られ、学生たちは自分の興味・関心があるテーマや業界のグループに加わり、先輩たちの話に耳を傾け、かったつに意見を交わした。

また、「卒業生と話す時間が足りなかった」という昨年のアンケート結果を参考に、今年は初めてフリーディスカッションの時間も。緊張しながらも先輩たちとの交流に果敢に取り組む学生たちの姿が見られ、用意されたお茶を飲む時間が惜しいくらい白熱した時間となった。同窓会側から配布されたガイドラインや、参加同窓生のプロフィールを読み込み、準備してきた学生が多く見受けられ、皆、自らの就職やキャリアと真剣に向き合っている様子がうかがい知れた。

開会の際、同窓会会長の木越純さん（27 ID83）が「私にとっては、就職より就人。一緒に働く『人』が大事」と語りかけ、その言葉に胸を打たれた学生も多かったようだ。人生の先輩である同窓生たちからさまざまなアドバイスを直接受けることができる機会となっただけに、「ざっくばらんに先輩方の本音を聞けた」「就職活動を超えて、自分の目指す『生き方』を考えるきっかけとなった」と学生たちから好評だった。また、就職活動が本格化する3年生に加え1～2年生の参加も年々増加の傾向にあり、彼らからは「また来年も参加したい」という声も聞かれた。

相談会終了後、参加同窓生の懇親会が同じビル内で開かれた。話し続けて疲れたのどをビールで潤し、同窓生同士の交流も盛んだった。「近ごろ、仕事に対する思いが薄れつつあったが、初心を思い出すことができた」と、日々、仕事に追われる同窓生にとっても大学時代の若い自分を振り返る機会となったようだ。

グループディスカッションのテーマ

No.	第一部　「テーマ別」	第二部　「業界別」
1	舞台は日本か、海外か （例：外資系日本法人と日系海外法人で 求められる英語力の違い、外資と内資の文化）	製造 （日用品、食品・飲料、印刷、電機、鉄鋼）
2	ICU生ってジョブホッパーなの？ （例：転職経験者としての成功・失敗談、 新卒から長年勤め上げることの魅力）	金融 （メガバンク、投資銀行、PEファンド）
3	また、学問の世界に戻りたくなったら・・・ （例：大学院経験者のその後、 就職→院、それとも、院→就職？それぞれの魅力）	専門サービス （コンサル、会計、法律）
4	会社の規模って重要なの？ （例：新卒で大企業/中小企業に入って良かったこと、悪かったこと、両者の比較）	商社・卸・小売
5	バリキャリとワーク・ライフ・バランス （例：趣味・ボランティア・社外活動との両立、 がむしゃらに働いた末見えてきたもの、 結婚・出産・育児等のターニングポイント、共働き、 専業主婦／主夫などワーク・ライフ・バランスのヒント）	国際協力
6	海外赴任・社内キャリアパス （例：国内転勤や海外赴任の経験者、転勤族の良し悪し）	情報・ITサービス
7	組織の中での多様な役割 （例：フロント／ミドル・バックオフィス、 社内異動で得た新しい視点）	マスコミ （TV、新聞、出版、広告代理店）
8		運輸 （航空、海運、鉄道）
9		公務 （公務員）
10		教育 （教員、大学職員）

≪ICU 同窓会の皆様へ≫　三井住友トラスト VISA ゴールドカード　年会費を大幅割引！

VISA ゴールドカード

通常税抜10,000円+税
▼
税抜2,500円+税

2年目以降も同額です！

ロードサービス VISA ゴールドカード

通常税抜11,000円+税
▼
税抜3,000円+税

★　ご家族も本会員申込みOK！
★　同窓会にもメリット！カード利用額の一部が同窓会に還元！
★　ご入会キャンペーン実施中！
VJAギフトカード1，000円分をプレゼント！（平成29年5月末まで）
申込書ご請求の方にも、もれなくボールペン（2色セット）をプレゼント！

※本会員年会費は左記のとおり。家族会員年会費は1,000円+税です。
※ロードサービスVISAゴールドカードは、別途ETC年会費税抜500円+税（初年度無料）がかかります。
なお、1年間に1回以上ETC利用のご請求があれば次年度は無料です。
※ご入会にあたっては、当社所定の審査がございます。

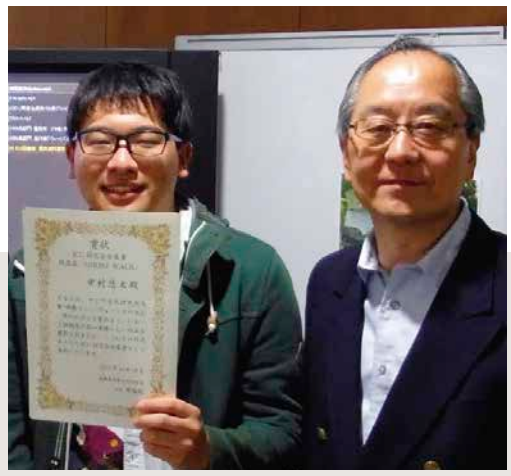
申込書請求先（メール、FAX の方は、ICU 同窓会員であることに加え ①名前 ②住所 ③電話番号 をご送信願います。）
◆メールの方　Moushikomi@smtcard.jp
◆FAX の方　FAX　03－6737－0834
◆お電話の方　☎　0120－834－928（やさしくつーわ）
（取得した個人情報は VISA カード入会申込書を送付することに限定いたします。）

お電話受付時間：平日 9:00～17:00（土・日・祝日・12/30～1/3 休）
営業推進部：清水・菅原・土屋

三井住友信託銀行グループ
三井住友トラスト・カード

左端がウィリアム・M・ヴォーリズ。一人おいて、後に初代学長になった湯浅八郎、日本国際基督教大学財団の初代会長のラフル・E・ディッフェンドルファー（1950年、ニューヨークの日本国際基督教大学財団で撮影。国際基督教大学 歴史資料室提供）

同窓会会長代行の櫻井淳二さんから会長賞を授与された中村悠太さん（左）



ヴォーリズの映像コンペ

中村悠太さんが同窓会会長賞を受賞

アジア文化研究所・平和研究所共催シンポジウム「ヴォーリズの夢：平和と大学」に合わせて、キャンパス内にあるW.M.ヴォーリズの建物を撮影した写真や映像作品のコンペが開催され、同窓会もこれに賞を設けた。

文：宮武久佳（G1983）

ICUのキャンパス内にあるヴォーリズが設計した建物に関する写真や映像のコンテスト『ヴォーリズのICU　夢のかけらを集めよう』で、3年生の中村悠太さん（62 ID18）の動画作品《GHOST WALK》が同窓会会長賞を受賞した。

「テクニカルな映像表現も含め、ヴォーリズの建造物を遊びつくした」（審査員長・有元健准教授）というのが受賞理由。2016年10月29日に開かれた表彰式で中村さんは「私たちはICUの建物を楽しんでいます。この感じを評価していただいてうれしい」と語った。

このコンテストは、キャンパス内のヴォーリズ建築（本館、旧D館、教員住宅、シーベリー礼拝堂など）をめぐる応募作品を通して、ヴォーリズ建築の意義を広く知ってもらうのが趣旨。同日のシンポジウム『ヴォーリズの夢：平和と大学』（主催：ICUアジア文化研究所、協賛：ICU同窓会）に合わせて開催された。

映像部門の「佳作」にも選ばれたダブル受賞作の《GHOST WALK》は、日常のICUのキャンパスを舞台に、昼と夜が交錯する中で事件が起きそうで起きない、不安定で不思議な雰囲気を、スケートボードによる軽やかな動きで描いた作品。同窓会会長代行の櫻井淳二さんは（28 ID84）は「同窓会が意義深いイベントに協賛できてうれしい。これまで関心がなかった人も『ヴォーリズ建築』の価値を発見してくれると思う」と話していた。なお、受賞作品は、アジア文化研究所のWebサイトから見ることができる。

ヴォーリズの映像コンペ入賞者一覧

最優秀賞（写真）
『授業。変わらない場所と変わるひとの共同空間』（作者：鶴田苑美）

ICU同窓会会長賞（映像）
『GHOST WALK』（作者：Nakamura）

写真部門
優秀賞
『窓の外』（作者：Natsuko Wada）
佳作賞
『ミチ』（作者：Y. K.）
佳作賞
『ICU』（作者：津原明梨）

映像部門
優秀賞
『Save the Diffendorfer Memorial』（作者：荒木望）
佳作賞
『ヴォーリズの「かけら」』（The Fragments of Vories）（作者：鄭優希）
佳作賞（ICU同窓会会長賞とダブル受賞）
『GHOST WALK』

「教育」という財産を、お孫さまに贈りませんか。

教育資金贈与信託〈愛称：孫への想い〉

「教育資金贈与信託〈愛称：孫への想い〉」は、30歳未満のお孫さま等への教育資金として当社へお預け入れいただき、当社はお孫さま等からの払出請求に基づき、教育資金をお支払いする商品です。
●5,000円からお申し込みいただけます。
●贈与を受ける方は、30歳未満のお子さま、お孫さまのほか、ひ孫さまも対象になります。

特長1 教育資金としてしっかり管理
贈与した資金は使途が教育資金に限定されるので安心です。

特長2 1,500万円まで非課税で贈与
【対象例】
学校等
そのうち学校等以外へのお支払いは500万円まで
学習塾・そろばん　水泳・野球　ピアノ・絵画　等

特長3 無料！
管理料
払出手数料

お問い合わせ・資料のご請求は
0120-988-494　受付時間 平日9:00～17:00（土・日・祝日および12/31～1/3はご利用いただけません）
孫への想い　検索
お問い合わせの際は「アラムナイニュースを見た」とお伝えください。

その人を信じて、その人に託す。Meet The Trust Bank
三井住友信託銀行

TAKASHI
Giovanni e Paolo, Venezia
Campo Santa Maria Fo
TAKASHI

TAKASHI
TAKASHI

A_News

本の出版、講演会、現役学生の活動など、
ICUに関連するさまざまなニュースをお届けします。

ICUや同窓生の関わるニュースあれこれ

今号の見開き：
「光」を追う画家 小川貴士

写真：一之瀬ちひろ　構成：佐野久美子　文：野仲裕子（本誌）

「光そのものは描けません。それを感じるような風景や影を描くことではじめて表現できるんです」。そう話すのは、ICUの卒業生であり、JLPで講師として長年教鞭をとっていた小川貴士さん（28 ID84）だ。現在は主に風景画を描く水彩画家として活躍し、イタリアと日本それぞれで画集も出版している。「私たちは光の中に生まれてきますし、『光が差す』という言葉があるように希望を表す言葉でもある。私は風景画にそんな『光』を持ち込みたいんです」

高校卒業後、文学や哲学を専攻したいと人文科学科に入学したが、FEPの先生との出会いがあり海外の日本語教育の実態を研究してみたいと、語学科に転科。在学中は米デューク大学（ノースカロライナ州）に留学し、卒業後はオハイオ州立大学大学院を経て、オレゴン大学で日本語教育に携わった。1992年、恩師の誘いもあってICUにJLPの講師として戻ることになる。

1999年、イタリアのヴェネツィア大学から声がかかり、サバティカル・リーブ（特別研究期間）で1年間イタリアに滞在。それが画家として踏み出すきっかけになったという。「まずはイタリアの美術に圧倒されました。あとは環境ですね。教科書で歴史的な芸術作品を見て、では明日本物を見に行きましょうということがイタリアではできます。美術そのものが日常生活の近くにある環境がうらやましかった。昔から絵を描くのは好きでしたが、イタリアに行ったことで創作にチャレンジしたいという気持ちが芽生えました」。帰国後の2002年には、ヴェネツィアでのスケッチをまとめた『光のヴェネチア』（冬至書房）が刊行された。「このころの絵を見ると、ただただ描くのが楽しかったそのときの純粋な気持ちが思い出されますね。技術としてはまだまだでしたが」。2005年からさらにもう1年ヴェネツィアに滞在し、2006年に現地の出版社、Editoria Universitaria Veneziaから画集*La seduzione dei ponti veneziani*（ヴェネツィアの橋は誘う）が刊行された。

2009年、教員生活20年を節目に教師を辞め、水彩画家として独立。「絵を習ったとか、師匠がいたとかではないんです。ただ絵を描くこと自体が楽しみであり喜びなんです。それは今も変わりません」。ヴェネツィアから始まった風景画の旅は、北欧を経て、ここ2年は京都を舞台に描いてきた。「スケッチブックを持って行って、下絵から着色までそこでやってしまうことが多いです。のっていると2時間くらいで描いてしまいます。その場の空気、風、音、匂い、現地の人とのふれあいの中で描くのが本当に楽しい。アトリエにいると描く行為だけになってしまうでしょう。だから極力その場で描きあげます。その時間だけで描けなかったら、次の日も同じくらいの時間帯に行って描いたりします。スウェーデンの旧市街を描いた時は、どうしても描き終えられなくて、次の年も同じ時期に同じ場所に行ったこともありますよ」

1月には、ICUの卒業生が銀座で営むカフェギャラリーART FOR THOUGHTで、個展「京都光彩」を開いた。光を追いかける画家は、次はどんな旅に出るのだろうか。

撮影協力：ART FOR THOUGHT

ART FOR THOUGHTの展示風景

小川貴士
OGAWA, Takashi（28 ID84）

1961年、静岡県生まれ。国際基督教大学語学科を卒業。オレゴン大学にて日本語教育に携わった後、ICUでJLPの講師となる。1999年からと2005年からの計2年間ヴェネツィアに滞在。2002年に『光のヴェネチア』を冬至書房より、2006年にEditoria Universtaria Venezia（イタリア）より*La seduzione dei ponti veneziani*（ヴェネツィアの橋は誘う）を出版。また装画を手がけた作品に『イエス・キリストの生涯を読む』（河出書房新社）『襲いかかる聖書』（岩波書店）などがある。各地のギャラリーや画廊で個展を開催。

石田由香理さんがサフラン賞を受賞

文：小林智世（本誌）　写真：国際基督教大学 パブリックリレーションズ・オフィス提供

卒業生の石田由香理さん（57 ID13）が、第14回サフラン賞を受賞した。

サフラン賞は、視覚障害を持ちながら社会に出て活躍する若い世代の女性に贈られる賞。社会福祉法人「視覚障害者支援総合センター」が、功なり名を遂げた視覚障害者ではなく現役で活躍する若手を激励する賞として、男性版のチャレンジ賞とともに設立した（いずれも受賞者は20代～40代）。第12回サフラン賞には、ICU卒業生で2016年DAY賞受賞者の堀内佳美さんが選ばれている。

石田さんは現在、NPO法人「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」の職員として、フィリピンの視覚障害児教育の向上に取り組んでいる。自身も全盲であり、教育を受ける上でさまざまな困難を経験してきたことからICUでは障害者教育について学び、フィリピンへの留学も経験。

ICU卒業後、英国サセックス大学教育系大学院修士課程を修了。同大学院に在籍中の2015年、外務省NGOインターン・プログラム対象者に選ばれ、NPO法人「アイキャン」でフィリピンの視覚障害児教育に関する実地調査と計画立案に携わった。2016年4月から現職。こうした活動が評価され、今回の受賞に至った。

石田さんは2014年、ICUの西村幹子上級准教授との共著『〈できること〉の見つけ方　全盲女子大生が手に入れた大切なもの』（岩波ジュニア新書）を出版。

石田さんが視覚障害児教育の道を志した原体験を知ることのできる一冊だ。

サフラン賞を受賞した石田由香理さん

翻訳・通訳
みなさまのおかげで、もうすぐ創立30周年！
さらなるお力添えをお願いいたします。
通訳者募集 ▶ 英語、仏語、その他 欧州言語、アジア言語
翻訳者募集 ▶ 言語：英語、仏語、その他 欧州言語、アジア言語
分野：法律（契約書等）、環境、エネルギー、政治、経済 その他
●コーディネーター（事務所勤務）も募集中
同窓生 10%割引
■お仕事のご相談もお待ちしています。
日本外国特派員協会会員／東京商業会議所会員
翻訳・通訳・制作（デザイン・印刷）
（株）エクシム・インターナショナル
EXIM INTERNATIONAL, INC.
☎03-3431-2118
URL：http://www-exim-int-com/
東京事務所 〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 ゼネラルビル3F TEL 03-3431-2118 FAX 03-3431-2120 E-mail：tokyo@exim-int.com
横浜事務所 〒232-0063 横浜市南区中里2-14-5 TEL 045-721-4800 FAX 045-721-5165 E-mail：yokohama@exim-int.com
President 永島 克彦（14期）　Advisor 比奈地 康晴（14期）

永田竹司先生（ICU 名誉教授・ICU 教会名誉牧師）
説教集 見えない希望のもとで
永田竹司牧師が 1980～2013 年の間に、日曜礼拝やチャペルアワーで語られた 300 を超える説教の中から、珠玉の言葉にあふれる 31 点を精選。
キャンパスで心に響いた励ましのメッセージが、今なお新しく、魂によみがえる。手元に置いてじっくり読みたい一冊。　※卒業生による編纂
教文館　2016 年 11 月発行　定価 3,100 円＋税
◆お求めはお近くの書店またはインターネットで◆

7A_People 飯塚帆南 (59 ID15)

各ジャンルで活躍する同窓生を紹介

飯塚帆南さんが「ミス日本みどりの女神」に

2016年1月25日、飯塚帆南さん（59 ID15）が「ミス日本みどりの女神」に選出された。日本を代表する“こころ美人”として国際交流や森林保護の活動に取り組む親善大使である「みどりの女神」。常に今、自分がしたいことを五感で感じて実行する飯塚さんに話を聞いた。

文：斎藤潤子、岡本早織（ともに本誌）
写真：ミス日本コンテスト事務局提供

IIZUKA, Honami
1993年生まれ。10年にわたる上海での生活を経て、2011年9月、ICUに入学。国際関係学と政治学をメジャー／マイナーで専攻。2015年6月、教養学部アーツ・サイエンス学科卒業。2016年1月に「ミス日本みどりの女神」に選ばれる。1年間の任期を終え、2017年4月に就職予定。

植樹活動をする飯塚さん

2015年6月にICUを卒業した飯塚さんは翌年4月、外資系のコンサルティング会社に就職するはずだった。ところが卒業から就職までの1年近いブランクに、目標を持って過ごしたいと挑戦したミス日本コンテストで「みどりの女神」の座を射止め予定は一転。入社を辞退して今しかできない大役を経験することを選んだ。その活動と現在の思いを、ミス日本コンテスト事務局のある新宿の京王プラザホテルで語ってもらった。

上海育ちの帰国子女、スパルタ教育で日本文化を本格的に勉強

飯塚さんは8歳から10年間、上海で育った。現地のアメリカンスクールでは米国の大学に進む人も多いなか、「今、日本に行かなかったら自分のアイデンティティーが確立できない。将来、海外で活躍するためにも自分のルーツである日本の文化を学びたい」と、ICUに入学した。

先輩に「ICUが日本だと思ったらだめだよ」と言われたが、飯塚さんにとっては日本の社会になじむための、よいクッションとなった。

本格的に日本の文化を勉強したのは「ミス日本」の勉強会だ。15年8月の地区大会を通過し、13人のファイナリストに残ると、翌年1月の大会までの5カ月間、より深い教養を身に着けるため特別研修を受けた。

内容は政治、経済、外交から、茶道や能といった伝統文化や歴史、スピーチ、マナー、ウオーキング、そして、「みどりの女神」など政府の活動をサポートする称号を与えられる可能性もあるため林業や上下水道の世界も。

第一線の人たちからじかに学べる貴重な機会だが、宿題に追われヘトヘトだったという。それだけに他のファイナリストとも仲よくなった。

「最初はライバルとして見ていた自分もいたと思うんです。でも、勉強会を必死に乗り越えていくうちに信頼し合える同志になりました」

ICUへの愛校心のおかげで「ミス日本みどりの女神」の称号を獲得

大会は二部構成。前夜祭の立食パーティーでは、列席者の中に覆面審査員がいて、候補者の社交性を評価する。翌日は、着物・ドレス・水着の3回の審査があり、そのたびに一問一答があるとあって、準備に力を入れた。

「1月になってからは、目にするものすべてに対して、今、これについて聞かれたらどう答えるかと考え、必死でした」。でも、そのおかげで予想していた設問が出た。

「ちょうど一週間前に東京で雪が降ったんです。だから雪にまつわるエピソードを聞かれそうだなって。そして本番で、留学したアメリカ・バーモント州のミドルベリーの話をしました。4月くらいまでスノーストームがあるのですが、春になると青々とした芽が出てきて白い雪と緑のコントラストが美しく、めったに見られない光景で印象的だったという話をしました」

二つ目の質問では何とICUについて語り、審査員の心をつかんだのだとか。

「あなたが誇れる雑学について話をしてくださいという質問で、結局、自分が一番語ることができることってICUについてだ、と思って約200人を前に、キャンパスツアーのように話をしました。というわけで、ICUへの愛を語って私はこの賞をいただいたと思っています」

少人数教育やリベラルアーツの話に加え、桜並木や緑豊かなキャンパスについて話を展開。ミドルベリーの新芽の話と合わせ、「みどりの女神」に選ばれるべくして選ばれたと言えそうだ。

林業現場から伊勢志摩サミットまでアクティブな活動を楽しむ日々

「ミス日本」というと、振袖やドレスでエレガントに振る舞う姿を想像するが、「みどりの女神」は、林業の現場で木を伐採するなど野外での活動が多い。林業の今と、これからの課題を一般の人に伝える役割が期待されているのである。

そのためには、イベントで子どもたちと木材のおもちゃで遊んだり、国際シンポジウムでプレゼンテーションをしたりと活動の幅は広い。

林業で使う機械（チェーンソーや車両系林業機械）を自分で動かせるよう修了証も取得した。

「クレーンで丸太をつかんで降ろすのを観客の目の前で披露したりもします。先日は、丸太の上に小さいペットボトルが置いてあって、それをもう一つの丸太に移動する難しいタスクをやりました」。5月には伊勢志摩サミットの「配偶者プログラム」（各国首脳に同行した配偶者向けのイベント）で日本人の自然観を説明するという大役も。事前に伊勢神宮で使われる木材の生産地に行って勉強したという。

「20年に一度の式年遷宮のために樹齢200年級の木が必要で、何代も前のご先祖様たちが植えた木が使われることや、サミット時に配偶者の皆さんが昼食で使われた木製テーブルや椅子も伝統的な技術によって作られていることに感動しました」と語る飯塚さん。

「日本は、国土の70%が森林で、昔から自然と向き合って共存してきました。神様のために木を使い、神様をたたえていることも、自然との関係の深さを感じます。そうしたことを、皆さんにお話しさせていただきました」と続けた。

森林保護や林業への女性活用など精いっぱい、課題に取り組みたい

こうした活動にはICUの4年間が大いに生かされているという。

「リベラルアーツ教育で、さまざまな視点からものを見ることを学びました。森林も、林業界、林野庁、そして消費者と、それぞれ見る人の視点によって違います。今日はこういう角度から発信しないと、と常に考えます」

ゼミの毛利勝彦先生には、みどりの女神になってから環境問題についていろいろ教わり、卒業生にも活動を通してよく出会う。「サミットで打ち合わせをした外務省の方や、林野庁の方、環境問題のNPOの方など、ICU生ってマイノリティーだけど、社会でとても活躍していると感じる場面が多くありました」

「みどりの女神」としての任期は17年1月まで。だが飯塚さんの意欲はとどまらない。

「木を切ることは悪いことだと誤解されがちですが、国内の森林は戦後、植樹して50年たっているので、切って使わないといけない時期に来ています。木にも二酸化炭素を吸収する限度みたいなものがあるので、使われないとメタボ化してしまうのです。実は、木を植えて、育てて、切って、使う、その循環が大切なのです。でも、最近は木を使うところが少ないので、もっと木材利用を普及させなければなりません」

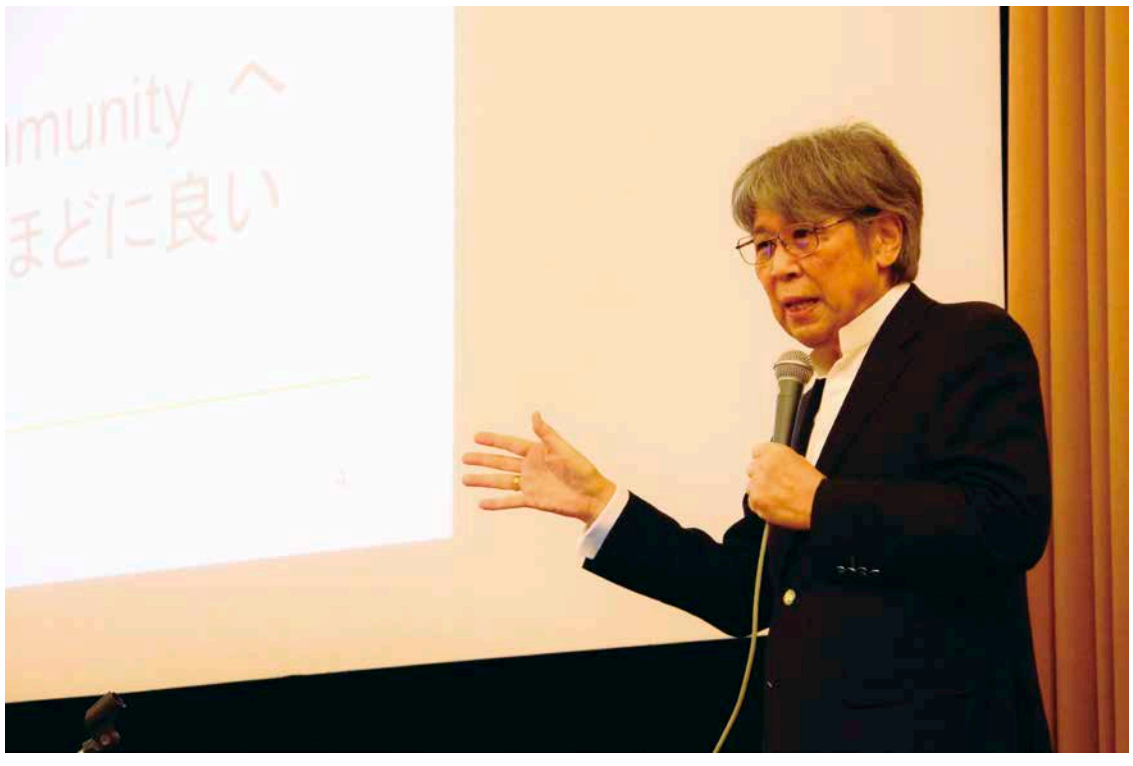
「REDDプラス」など、日本が森林保護・持続可能な森林経営のために途上国で行っている取り組みについても、もっと若い世代に知ってもらいたい、と熱く語る。

林業は中高年の男性が主に担っているが、若い女性にも魅力のある分野だと、飯塚さん。「今は、機械も進んでいて簡単に操作できるので、女性の方でも活躍できる業界だということもアピールしたいです」

目の前にある課題に全力投球で取り組む、「いまを精いっぱい生きる」飯塚さんの今後の活躍にますます期待したい。

7A_Lecture

同窓会が主催するリベラルアーツ公開講座シリーズ



村上陽一郎
MURAKAMI, Yoichiro

専門は科学史、科学哲学、科学技術社会論。1936年、東京生まれ。東京大学名誉教授、国際基督教大学名誉教授。1968年、東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。『人間にとって科学とは何か』『あらためて教養とは』『あらためて学問のすすめ』『安全と安心の科学』『思想史の中の科学』など著書多数。最新刊は『科学の本一〇〇冊』(河出書房新社)

《第2回ICU同窓会リベラルアーツ公開講座》

村上陽一郎先生の講演会「ヒトから人間へ」を開催

2016年9月10日、国際基督教大学名誉教授、東京大学名誉教授で、日本アスペン研究所副理事長の村上陽一郎先生による講演会「ヒトから人間へ　本能から自由になった人間」が、東京・内幸町の日本プレスセンタービルで開催された。

文：鷲見徹也（本誌）　写真：滝沢貴大（62 ID18）

この講演会はICU同窓会主催の「リベラルアーツ公開講座」の第2回として昨年に引き続き開かれたもので、今回は大学が協賛。一般の人たちも含む211人が参加して熱心に耳を傾けた。講演会の後の懇親会では、前日に80歳の誕生日を迎えた村上先生に花束が贈呈された。

講演で先生は、前回の講演の中心テーマだった「リベラルアーツ」の重要性にさかのぼって話をスタート。「リベラルアーツ」における「教養」は、「自分が生きてきたのとは違う世界に自分の心を開いていく」ということのほかに、「自分の中に何かを確立する」という意味合いがあり、後者の意味での「教養」は、英語のカルチャーよりも、トーマス・マンの小説『魔の山』に代表されるビルドゥングスローマン（教養小説）などで使われるドイツ語のビルドゥングス（自己形成）が近いと述べた。

未成熟のまま生まれるヒト

そのうえで、「ヒト」が、一人の「人間」としてつくられていくプロセスを問いかけ、スイスの動物学者アドルフ・ポルトマン（1897～1982）が『人間はどこまで動物か』（高木正孝訳、岩波書店）の中で記した「生理的早産」という言葉を紹介しながら、熊や馬などの大型哺乳動物は生まれてすぐ立ち上がるのに対して、生物学的な種としての「ヒト」の赤ちゃんは、直立二足歩行もできないうえコミュニケーション能力も備わっておらず、いわば、未成熟のままに生まれるというのがその基礎的な特徴であると指摘した。

本来、ヒトは、哺乳類の出産時と同じくらいの発達をするためには、妊娠期間が延ばされ、21カ月間、胎内にいる必要があるという説があり、その半分以下で母親の体外に出てきてしまうのがヒトであると述べた。

いわば「早産」した「ヒト」は、「第二の子宮」とも呼ぶべき母親（役）との関係の中で言語を学んでいくが、村上先生は、「認識の道具」としての言語の重要性を強調。われわれは身の周りの感覚世界も実はそのままを見ているのではなく、「分節化」と言われる方法、すなわち、英語では“water”と呼ばれるものを日本語では「水」と「お湯」とに区別するように、世界を言葉によって切り取って見ており、やがて、そうした分節化を共有している人々による共同体の「規矩（きく）」とも言うべき、社会の価値観や行動様式も学びとっていくと語った。

脆弱な抑制機能

こうした「ヒト」を動物と比較した場合、「ヒト」は「食欲」「戦争などの殺戮欲」「性欲」などの面で、動物には本来的に備わっている先天的な抑制機構が脆弱化しており、その欲望を抑制する装置として共同体の秩序である「ノモス」があるとした上で、個人は決して共同体のノモスを全面的に受け入れるわけではなく、変化と創造の基であり、発展のエネルギーとも言うべき「カオス」を抱えていると指摘。個人の中でも、カオスは思春期に最も強く表現されるが、大人になるにつれてその働きを慣らして、やがて安定するようになる。だが、一方で、共同体に受け入れられない、あるいは、生きづらいと感じるのが「疎外」された人たちであると述べた。

村上先生によると、社会の「中心」は、カオスの働きがほどほどである個人が占めている一方、「周縁」では、カオスの働きがノモスへの反逆に向かいがちな個人が占めており、後者の典型が宗教家や革命家、それに、近代社会における芸術家であると語った。

「芸術か猥褻か」

そして、近代芸術における前衛にはノモス、つまり、秩序を壊す役割があることを挙げ、その一例としてジョン・ケージが1952年に作曲した『4分33秒』を紹介した。この曲は、ステージに現れた演奏者は、楽章の区切りを示すこと以外は何もせずに過ごし、一定の時間が経過したら退場するというもので、音楽は音を出すものという常識を覆す、いわば無音の音楽。ノモスを壊すという点では、こうした前衛的な音楽ばかりでなく、彫刻も、絵画も同様のことが言えると村上先生は語った。

その上で、英国の作家D・H・ローレンスが1928年に発表した小説『チャタレイ夫人の恋人』を翻訳し、わいせつ物頒布罪に問われた作家の伊藤整と版元をめぐる「チャタレイ事件」の裁判（1957年、最高裁が上告を棄却、有罪判決が確定）で新聞の見出しとなった「芸術か猥褻か」という言葉を取り上げ、この言葉から分かるように、「芸術」であれば社会を壊すような表現であっても許される、つまり、「芸術」の中では「カオス」は寛大に扱われることになると述べた上で、「近代芸術は、社会が生み出したカオスのエネルギーを吸収するためのショックアブソーバー（衝撃吸収装置）ではないか」と語りかけ、講演を結んだ。

7A_Goods

同窓会グッズを紹介

新商品登場!

伐採されたICUの桜で作ったグッズ、学生がプロデュースした
フェアトレード認証コットン使用のグッズなど、新商品が加わりました。
桜グッズの代金の一部はICUの美しい桜並木を未来につなげるための募金になります。
この機会に、身に着けたり、使ったりしてみてはいかがでしょうか?

文：同窓会事務局　写真：一之瀬ちひろ（本誌）

同窓会グッズのご購入方法

商品名、個数、色、サイズ、送付先などを記載の上、ICU同窓会事務局（aaoffice@icualumni.com）までお申込みください。折り返し、事務局から振込先、金額をお知らせし、入金確認後、商品を発送させていただきます。

●ICU同窓会事務局　TEL&FAX　0422-33-3320

※価格は税込みです。

※送料については、大きさ、重さによって異なりますので、同窓会事務局にお問い合わせください。

※写真と、実際の色味が異なる場合もございます。

※品切れの際はご容赦ください。

※学内では、三省堂書店、および、アラムナイハウス2階の同窓会事務局でも購入できます。

フェアトレードグッズ

2015年度ドリコン金賞受賞のELABELプロデュースのフェアトレードグッズ。トートバッグ 1,350円 36.5cm× 34cm（取っ手含まず）マチ8cm。13inのPCもすっぽり収まります。ブックカバー 700円 文庫サイズ 丈夫なしおり付き。

桜グッズ

桜グッズ（左上）杖 4,500円 長さ83cm 簡単に折りたため、付属の布袋（35×16cm）に入ります。（右上）写真立て 3,500円 14.8×19.2cm横型はがきサイズ。壁掛けも可能。（左下）キーホルダー 400円 桜材部分3×3cm 厚さ4.5mm。（左下）マグネット 500円 1.5cm×20cm 厚さ1cm。（右下）コースター 2枚組1,000円 8.5×8.5cm 厚さ5mm。
※杖と写真立ては木工作家の千田哲史さん（38 ID94）が製作。キーホルダー、マグネット、コースターは美術部OBの大沢正明さん（25 ID81）のデザインです。

ハードカバーノート 各650円 A5版。表紙の色は白、紺、黒の3色。中身は無地。140ページ。本館イラスト入りノート 300円　イラストは同窓会事務局の岡田路子さんのデザイン。A5版。中身は5mmの方眼。80ページ。

キャップ 各1,900円
「ICU」と盾ロゴを正面に刺繍したキャップ。アイボリーとネイビーの2色。
頭囲は伸縮可能で55～65cm。

（右）バイザー 1,700円 “ICU”と盾ロゴを刺繍したバイザー。色はネイビー。つばは7.2cm×17cm、頭囲57～61cm。（左）くるくるバイザー 2,000円 くるくる巻けて持ち歩きに便利。色はネイビー つばは約12cm 頭囲56～62cm。

テラピンチハット 各1,900円
左側のつば部分に、大学名と盾ロゴを刺繍したハット。色は白と緑の2色。頭囲はMサイズ57cm Lサイズ59cm。

卒業50周年を迎えた10期生

10期生が卒業50周年「桜祭り」で記念式典

2016年の「桜祭り」は、3月26日、開花し始めた桜の下、大学礼拝堂で開会、総会、DAY賞表彰式の後、10期生の卒業50周年の記念式典が行われた。

文:小林智世(本誌)　写真:樺島榮一郎(本誌)

2016年3月26日(土)、同窓会による恒例の「桜祭り」が大学礼拝堂で開かれた。3月末としては異例の冷え込みとなったが、開花し始めた美しい桜の花がキャンパスを訪れた同窓生たちを迎えた。

ICU OGC合唱団によるハレルヤコーラスとICU教会の北中晶子牧師(46 ID02)の祈祷により第1部が開会。元テレビ朝日アナウンサーの野崎由美子さん(G1988)が司会進行を務めた。

最初の同窓会総会では、以下の3つの議案の審議と報告が行われ、いずれも承認された。

議案① 2015年度活動報告、および2016年度活動計画

議案② 2015年度決算報告、および2016年度予算案

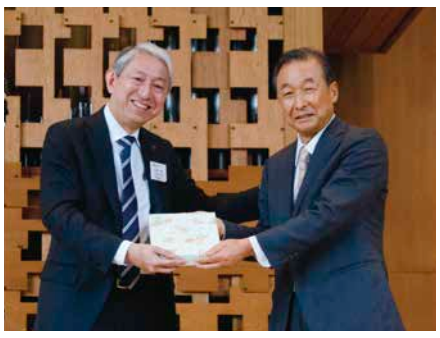
議案③ 2016年からの同窓会役員・評議員候補

報告 名誉会員の紹介:Mr. Kurt Tong 米主席国務次官補代理

その後、DAY賞表彰式に移り、選考委員長の宮武久佳さん(G1983)が受賞者3人の受賞理由を報告。受賞者の茅野徹郎さん(1)、森枝卓士さん(22 ID78)、堀内佳美さん(51 ID07)が受賞の感想を述べた。年代も活動分野も異なるものの、共通しているのは「他人とは違う自分の道を歩み続けている」(宮武委員長)こと。まさに、ICUのモットーである「一つあって二つとない」人生を歩んでいることが感じられるスピーチに礼拝堂は大きな拍手に包まれた。

続いて10期生(1966年卒)の卒業50周年記念式典が行われた。式典では木越会長が祝辞を述べ、来場した41人の10期生に記念品が贈られた。その後、10期生を代表して白石隼男さんがスピーチ。10期生からの大学への寄附金が、折田昌子さんから日比谷潤子学長に贈呈された。

北城恪太郎理事長と日比谷学長からのあいさつに続いて、讃美歌「とらえたまえ、わが身を」を斉唱、北中牧師の祈祷で第1部は閉会となった。大学食堂での第2部(懇親会)では、同窓生5人による二胡とピアノの演奏やピースベル奨学生たちの学習報告などが行われ、懇親会に花を添えた。



10期生代表の白石隼男さん(右)と木越純会長

スピーチをする日比谷潤子学長

あいさつする北城恪太郎理事長

司会の野崎由美子さん

同窓生の皆さんへ DAY受賞者コメント

文:小林智世、水野愛子（ともに本誌）
写真:樺島榮一郎（本誌）

茅野 徹郎

CHINO, Tetsuo（1）

ICUにはパイオニア精神がある。私は戦後日本の復興期、大学の前身である「語学研修所」に入学し、それを体感した。DAY賞を受けることにしたのは、パイオニアの一人としてこの精神を次世代に伝える機会だと考えたから。振り返れば、ICUではゆったりとした豊かな学びがあった。異文化間の違いを尊重する考え方を体得したことは、本田技研工業で海外市場開拓を任された際、大いに役立った。語学研修所卒業50周年の年、当時の仲間と、大学構内に記念の“PIONEER STONE”を立てた。パイオニア精神がここに生き続けることを願って。

1957年　社会科学科卒
商社勤務を経て、1961年、本田技研工業に途中入社。アメリカホンダ社長、本社代表取締役専務の後、退社。ICUで受けたリベラルアーツ教育が在職中に役立ったという。退職後、日米協会専務理事として日米の交流に貢献。ICU総務理事・財務理事として大学の財政基盤の健全化に尽力した。創立50周年記念募金の副委員長を務めたほか、募金事業のFriends of ICUを発案し、その実現を図った。

森枝 卓士

MORIEDA, Takashi（22 ID78）

歴史から、あるいは、文化の比較を通して相対的にものごとを考えるリベラルアーツ的視点をICUで学んだ。それは、仕事や生きていく上での財産、指針になった。いま、日本に限ったことではないが、相対的な視点に欠けた人々が大きな声を発し、権力の座にある。そして、マスメディアはスポイルされ、本来の責務を果たせなくなっている。そのような時代だからこそ、ICU的なリベラルアーツ、多言語で情報を得る力も必要とされると思う。リテラシーが求められている。私も教育、出版の場で伝えていきたい。母校もその礎となって欲しい。

1978年　社会科学科卒
熊本県水俣市生まれ。高校生のとき、水俣病の取材に訪れた写真家ユージン・スミスと知り合い写真家、ジャーナリストを志す。文化人類学を専攻。卒業後、東南アジアに住みカンボジア内戦、麻薬問題などを取材。その過程で食文化に興味を持つ。著書に『カレーライスと日本人』『食べているのは生きものだ』など。漫画『華麗なる食卓』を監修。大正大学客員教授。

堀内 佳美

HORIUCHI, Yoshimi（51 ID07）

高校時代に留学したアメリカでタイ人の友だちができ、タイとかかわることが自分の夢となった。ICU入学後は念願がかなってタイでのワークキャンプに参加、大学にも留学した。点字などのサポートのある盲学校との違いに悩むこともあったが、周りに頼る大切さに気づいた。私が設立した「アークどこでも本読み隊」がタイで運営する図書館は、だれも子どもたちに「シー、静かに！」と言わない、楽しい学びの場。この図書館で、かつての私のように読書の喜びを知り、世界を広げてほしい。ボランティアをしたい同窓生、学生も大歓迎です！

2007年　語学科卒
高知県出身。生まれた時から目が不自由で、その後、失明。筑波大学附属視覚特別支援学校在学中、米国の盲学校と高校に留学。帰国後、タイ語を学び、ICUの3年時、タイの国立タマサート大に留学。卒業後、証券会社勤務を経て、インドでNGO設立・運営のスキルを習得した。2010年、「アークどこでも本読み隊」の活動を開始し、移動図書館と幼児教育センターを運営している。

ICU祭でDAY賞受賞者、森枝卓士さんが講演

複数の視点で世界の「食」を分析

文:朽木ゆり子（本誌）　写真:岡田曜（51 ID07）

ICU祭初日の2016年10月22日、今年のDAY賞受賞者でフォトジャーナリスト、食文化研究家の森枝卓士さん（22 ID78）によるトークがアラムナイハウスで行われた。森枝さんは、早稲田大学や大正大学などで教鞭をとり、ロングセラー『カレーライスと日本人』（講談社学術文庫）をはじめ、数多くの著書がある。

森枝さんは熊本県水俣市の出身。高校時代に水俣病の取材に来た世界的な写真家ユージン・スミスと出会い、アシスタントとして働いたことがきっかけでジャーナリズムに興味を持ち始めた。日本以外の世界を意識するようになってICUに進学。文化人類学を専攻し、写真部に在籍した。アルバイトで貯めたお金でインドやネパールに旅行に出かけ、撮った写真をさまざまな雑誌に持ち込み、何度も掲載された。そのおかげで、フリーランスでも食べていけるだろうという展望を持つようになったという。

食べ方の多様性を語る森枝卓士さんの講演の様子

卒業後、旧D館の地下にあった床屋のおじさんの紹介で、ラオスのダムの発電施設の屋根修理プロジェクトに参加する。そして、当時、インドシナを取材中だったICU卒業生のフォトジャーナリスト、故馬渕直城さん（15期）に出会って、フリーのジャーナリストとして本格的に働き始めた。同時に、東南アジアの「食」の世界に引き込まれ、それが今の仕事につながっている。

森枝さんにとっての「食」とは、おいしいものの探求や、健康志向に根ざしたライフスタイルの一形態ではなく、宗教や歴史を背景としたローカルな文化としてとらえられるものだ。

森枝さんは、そうした視点を子どもたちに説明したときの話を、子ども向け写真絵本『手で食べる？』（福音館書店）のスライドを見せながら話してくれた。この本の中で森枝さんは、食べ方の文化を「フォークとナイフで食べる文化圏」「はしで食べる文化圏」「手で食べる文化圏」の3つに分けて、その歴史的背景を明らかにし、「食」の常識は文化によって違うこと、われわれの食べ方だけが普遍的ではないことを伝えている。この本からも分かるように、森枝さんは食べ方の違いを歴史や比較文化など複数の視点で分析しているが、それができるのはICUでリベラルアーツ教育を受けたから、と学生時代を振り返った。

この他、「食」の興味深いエピソードや、大学で教えている授業の内容など、話は盛りだくさんで、あっという間の一時間半だった。最後に、9月に訪れたばかりのウガンダとエチオピアのスライドを写しながら、「非常に異なるアフリカのこの二つの国の食文化をどのような視点でとらえるかが、現在の私にとっての課題です」と語り、トークを締めくくった。

ICU Festival 2016

「DAY賞受賞者トーク」「ホームカミング」など多彩に展開

**2016年のICU祭は10月22日（土）と23日（日）の両日開催。
同窓会の企画では「DAY賞受賞者トーク」と「ホームカミング『ICU Peace Bellスカラーを囲んで』」（大学と共催）のほか、
本館前で「チャリティ整体」、アラムナイハウス内で「カフェ」、それに「ICU桜 Recycle Project」によるグッズを含む「同窓会グッズの販売」が行われ、
多くの同窓生でにぎわった。また、今回、映画や食事、買い物、資格取得などの優待サービスがある
WELBOX紹介の宣伝ブースも初めて設けられ関心を誘っていた。**

文（リード、写真説明）：鷲見徹也（本誌）

談笑する寄付者と奨学生

「2016ホームカミング『ICU Peace Bellスカラーを囲んで』」開催

文・写真：岩井天音（57 ID13）

ICU祭2日目の2016年10月23日、アラムナイハウスで大学と同窓会の共催によるPeace Bellスカラーのホームカミングが開催された。従来の大学主催の報告会とは異なり、同窓会も主催者側に入り、スカラー自ら企画に参加した初めてのイベント。Peace Bell奨学金の寄付者とスカラーを中心に53人が参加、両者の代表5人が座談会に登壇し、Peace Bell奨学金への思いを語り合った。

Peace Bell奨学金との出会い

Peace Bell奨学金は、ICU創立初期の同窓生による寄付が多くを占める。その背景には「自分たちも戦後の厳しい状況の中、全国各地から寄せられた奨学金のおかげでICUで学ぶことが出来たため、恩返しをしたい」という思いがある。会場からは「4期生が募金活動を熱心にしていたので3期生も頑張ろうと思った」「友人に誘われたことが寄付のきっかけになった」というコメントがあった。

スカラーからは「大学受験の時に奨学金の存在を知った。国公立に行くしかないと考えていたが、ICUへ入学する道が開けた」「地方出身で上京をあきらめていたが、この奨学金のおかげで今の学びがある」という発言があった。3人の現役・既卒スカラーからは新寮の寮長としての活動や、勉学、留学、仕事などに励んでいる様子が報告された。

“Peace Bell”に込められた思い

Peace Bellとは、大学創立のため尽力した当時の日本銀行総裁・一万田尚登氏を記念し、創立50周年にICUチャペルに寄贈された平和の鐘の名称だ。その鐘に は"LET THEM SEEK PEACE AND PURSUE IT"（「平和を求めて、これを追え」ペテロ第一の手紙第三章第11節）と刻まれている。

寄付者からは「この奨学金に込められた意味を十分に理解して学生生活を送ってほしい」という声が寄せられた。スカラーからは「就職活動していた時、Peaceを追い求められる企業かどうか、一つの軸として考えていた」「この理念に沿って行動できているか、いつも自分の胸に問いかけている」といった頼もしいコメントがあった。

次の世代につなぐトーチリレー

Peace Bell奨学金のコンセプトは、先輩が後輩を支援する「寄付のトーチリレー」だ。このトーチリレーを財政面だけではなく、理念の面でも、いかに次世代に引き継いでいくかがPeace Bell奨学金の課題でもある。

既に卒業し社会人となったスカラーからは「“与えること”の喜びを学んだ。社会に出て、ICUの恵まれた環境とのギャップに驚き、物足りなさを感じることもあった。しかし、奨学金を受けていた分、今度は自分が周りに“与える”側になって社会に恩返しする番なんだ」と気付かされ、スカラーというアイデンティティーが日々の生活の糧になっているという話があった。寄付者からは「寄付者に恩返しするのではなく、社会全体に恩返しするように頑張ってね」という励ましがあった。

最後に木越純同窓会会長が「今日の会をきっかけにPeace Bell奨学生の横、縦のつながりを広げてほしい」と語る一方、日比谷潤子学長は「大学としては、本当にICUで学びたいと思う人に入学してほしい。この奨学金が、その役割を担う一助になっていれば」と、あいさつされた。

既卒スカラーによる巧みなファシリテーションのおかげもあり、カジュアルな雰囲気の中で和やかに会は進行。会場からも多くの発言があって活発に意見交換が行われ、スカラーとドナーが互いの思いを知り、「トーチリレー」を次の世代につなげるための第一歩として貴重な機会になった。座談会に引き続いて懇親会も開催され、スカラーと寄付者、大学関係者の間での交流が深まった。

＊Peace Bell 奨学金とは
同窓生のイニシアティブによって始まった、優秀、かつ、経済的支援を必要とする学生を対象とした奨学金制度。年額100万円を原則4年間、給付する。これまでにスカラーの総数は入学ベースで111人。
寄付の方法など詳細は、以下のICUのWebサイトをご参照ください。
http://subsites.icu.ac.jp/fundraising/peacebell.html

「カフェ」は、同窓会側からの出店依頼による恒例の企画。今年は、山際百合子さん（45 ID01）（左）が営む銀座のアートカフェART FOR THOUGHTが2013年に引き続き2回目の出店。同窓生たちは、しゃれた稲荷寿司、それに、オムレツ、合鴨のスモークなどをワインやコーヒーを飲みながら味わっていた。
文：鷲見徹也（本誌）　写真：岡田曜（51 ID07）

アラムナイハウスの1階と2階の一角を飾るのがグッズコーナー。いずれも事業部の同窓生たちが開発した商品ばかり。1階では、ノートをはじめとする新商品、それに、コースター、ポロシャツ、ボールペンなどの定番商品を販売。2階では、清酒やワインが並べられ、同窓生が買い求めていた。
文：鷲見徹也（本誌）　写真：岡田曜（51 ID07）

恒例の「チャリティ整体」が今年も本館前に設けられたテントで行われ、多くの人たちが訪れていた。この催しは、三鷹駅南口近くでカイロプラクティック院を経営する佃隆さん（44 ID00、同窓会評議員）が2002年から続けている企画。料金は1回500円で、毎年同窓会に寄付されている。
文：鷲見徹也（本誌）　写真：滝沢貴大（62 ID18）

7A_Major

全31の中から気になるメジャーを紹介

第13回　経営学　宮崎修行教授

**高度に発達した資本主義社会に生きる私たちが、
企業が提供する財やサービスと無縁に暮らすことはほとんど不可能です。
人間や社会を批判的に考察する上で、経営というテーマは避けて通れないものと言えるでしょう。
ICUの経営学メジャーの現状について、宮崎修行先生に語っていただきました。**

文・写真：小林智世（本誌）

宮崎 修行
MIYAZAKI, Nobuyuki

2000年、早稲田大学博士課程（商学）修了。1998年4月、国際基督教大学教養学部に準教授として着任。2001年4月から教授。2012年4月から、経済・経営学デパートメント長を務める。授業の傍ら、大学のチャペルアワーではクラリネットの演奏を披露。JEPIXフォーラム、環境経営学会（サステナブル・マネジメント・フォーラム）、環境経済・政策学会に所属。専門分野は、会計学、環境影響評価、経営学、商学、金融・ファイナンス。趣味は音楽鑑賞、野球評論、漫画を読むこと。お勧めの漫画は「へうげもの」（山田芳裕、講談社）。

経営に必要な要素を幅広く学んでほしい

経営学メジャーの使命は、学生たちが学びを通して、世界に通用するビジネスの指導者に求められる要素を身につけられるようにすることです。その要素とは、教養、多面的な価値観・倫理観、柔軟で機敏な思考力、コミュニケーションの重要性への理解、そして一生使えるビジネススキルです。経営者になるわけではなくても、自分の思ったことを実現させる上で欠かせない要素です。

ビジネスにおいては、顧客、株主、従業員、取引先といった数多くの利害関係者を納得させることが求められます。議論を通じて活動の内容を決めたり、双方にとって有意義な関係を模索したりする上では、実務能力や会計の知識・資格だけでなく、交渉力や柔軟性、多様な文化や価値観への配慮が不可欠です。また、特に国際的なビジネスの場では、教養、とりわけ文学や芸術への理解が大きな意味を持ってくると感じます。時代を超えて鑑賞されてきた作品に触れる経験は、説得力のあるロジックを組み立てる上でも、諸外国のビジネスパートナーと対等にわたりあう上でも、大きな強みとなります。

経営学というと、企業や組織の利益最大化がテーマだと思われがちですが、本来、経営学が追求するのは生み出される価値の最大化です。水俣病などの公害問題を考えれば分かりますが、利益のために美しい自然という価値あるものを犠牲にするような経営は、優れているとは言えません。目に見える利益にとらわれず、有形無形の価値あるものを社会に提供するにはどうすべきか、豊かさとは何かを考えなければならない。その上でも、教養に裏打ちされた社会や人間への深い洞察は不可欠なんです。

経営・会計・財務を網羅する教育体制

経営学を構成するのは、経営・会計・財務の三分野です。企業の体制やビジネスの内容について研究するのが経営、ビジネスの実態を会計情報として集約し活用するプロセスに焦点化しているのが会計、そして株主・市場・国などに向けた会計情報の開示や伝達について考察するのが財務です。研究対象に多少の違いはあっても、この三分野は相互に深く関係しています。

経営学メジャーでは、2013年に金子拓也先生、2016年に金澤雄一郎先生が加わったことで、経営・会計・財務の全分野において卒論指導ができる体制になりました。教職員不足で三分野をカバーできなかった時期もあったので、体制が整ってさらに充実した学びを提供できるようになったことを、経済経営学デパートメント長としてうれしく感じます。

考える力と基本的な知識のバランス

私が授業で大切にしているのは、始まる前に筋書きを決めないことです。授業のコアとなる内容だけを事前に決め、説明の仕方や使う例については、学生の反応を見ながら判断します。上杉景勝と直江兼続の例で株主と経営者の関係を説明するなど、大河ドラマや時事問題、漫画を例に使うこともあります。聞き手の反応を意識せずに、どこでも同じ講義をするのはテープレコーダーを回しているようなもので、学生に失礼ですし、給料泥棒です。実際、そんなことをしても、私も学生も楽しくありません。

また、学生を巻き込むため、授業中にランダムな質問を投げかけます。たとえば、「今日は何月何日？」という質問から、質問の真意を測りかねていぶかしがる学生に「その質問って、高齢者の免許更新の際の標準問題だよ」と進み、「日本で議論している高齢者の運転禁止って、世界の何カ国で既にやってると思う？」と意外な方向にシフトさせ、ドメスティックな感覚に縛られていた自分の視野の狭さに気づかせることもあります。

学生の答えによって、授業の流れが変わることもしばしばあります。以前はプレゼンテーションやディスカッションの時間を設けていましたが、教えられる内容が減って授業の密度が薄くなったため、近年は対話形式にしています。生き生きした学びの場をつくれるよう、リアルタイムで工夫を重ねています。

こうした対話が成り立つのは、自ら考えようとする優秀な学生のお陰です。学生との対話が大事と言っても、日本の大学では一般的に学生が「答えられないと評価が下がる」と萎縮して、（自分が）模範解答（と思うこと）しか言わず、常識を超えるようなユニークな反応を返してくれないのだから不可能だ、という意見も聞かれます。実際に、名門といわれる大学でも、学生から来る質問のほとんどが、「これ、試験に出ますか？」という質問の場合が多いんですね。それに対して、<バカになって、損得抜きに>自分の考えを発信できるのは、まさにICU生の強みではないでしょうか。

ただ、専門用語などの知識のストックの量では、国立や早慶などの学生に及ばないと感じる時もあります。よく、奈良時代と平安時代の違いも分からない学生がいると言われますが、すべての学問の基礎となる歴史の教養が今ひとつなのは、ICU生も同じです。考える力も大切ですが、将来の応用のベースとなる基本的知識の習得と、それから、社会に出てから多面的に役立つ、人間的コミュニケーションの種としての雑学の知識もおろそかにしてほしくないですね。雑学と言うと価値が低く感じられますが、よく言えば学際性ということです。

経営学メジャーのデータ

●開講されているクラス（一部、2016年度現在）
経営学
会計学
管理会計論
財務会計論
日本の社会とビジネス
国際会計
リスクマネジメント論　など

●担当教員（2016年現在）
稲葉 祐之　INABA, Yushi
金澤 雄一郎　KANAZAWA, Yuichiro
金子 拓也　KANEKO, Takuya
宮崎 修行　MIYAZAKI, Nobuyuki

From the University

大学のページ

2016年11月、岩井克人・本学客員教授（メジャー:経済学）が、今年度の文化功労者に選ばれました。学術功績に加え、文化への功労を顕彰された岩井先生に、これまでと現在のご研究、そして、これからの社会をどのように考えているかをテーマに、インタビューを行いました。

インタビュー：国際基督教大学パブリックリレーションズ・オフィス、橋本明子（35 ID91/G1993）写真：国際基督教大学

岩井教授は、2017年4月より「特別招聘教授」（新設）に就任されることが決まりました。著しい教育、研究並びに専門業績をもって、大学に貢献することが期待されています。

岩井克人先生 インタビュー
「高度化する資本主義社会では、信頼と倫理により支えられる仕事が増えていく」

―― 岩井先生の、これまでの研究について教えてください。

2015年に出版した学問的自伝『経済学の宇宙』にも記しましたが、私の研究は経済学の主流から外れています。学界の中では成功していません。でも、学問をする人間としては、幸せでした。それは、主流派ではなかったからこそ、自分の好きな研究に没頭でき、経済学の枠組みを超える仕事も出来たからです。さらに、文学や芸術や思想についてのエッセーまで書く時間も持てました。それが、文化への功労という今回の顕彰につながったのだと思っています。

小学生から中学生のころは科学少年で、科学に関するものを読みあさりました。私が中学のころというのは1950年代後半、ちょうど創刊されたばかりの早川書房の『S・Fマガジン』を面白そうだと読み始め、それが科学から文学への移行の足掛りになり、高校、大学時代は文学の世界にのめり込みました。大学進学を目前にして、科学か、文学か、進路に悩みましたが、その両方の要素を持つ社会科学を選び、当時は進歩的知識人であればだれもが学んだ「マルクス経済学」を専攻すると決めました。

ただ、大学入学後、マルクス経済学には疑問を感じるようになり、近代経済学に志望を移しました。良い先生に恵まれ、経済学研究を自分の仕事としようと大学院進学を志し、応募したのですが、1969年は東大紛争により大学院が閉鎖されていました。当時の東大には、宇沢弘文先生、小宮隆太郎先生、浜田宏一先生と、外国で活躍して帰国された先生がおり、海外で経済学を続けなさいと、推薦状を書いてくださいました。私は運よくマサチューセッツ工科大学（ＭＩＴ）に合格しました。3人の同級生と共に、当時、思ってもみなかった海外留学の道を歩み出しました。

初めから異端を志したのではない

アメリカでは、ＭＩＴの大学院で3年、カリフォルニア大のバークレーでポスドク1年、イェール大学の教員として8年、計12年を過ごしました。ＭＩＴはアメリカ経済学の中心に位置しており、大学院ではポール・サミュエルソンやロバート・ソローにアドバイザーになってもらいました。博士論文を書いたころは「輝ける星」でした。そして、大学院時代に書いた主流派経済学の論文のおかげで、イェール大学で教えることができました。ところが、主流派経済学を理解して、主流派の理論を内部から、より厳密に追求していくうちに、その矛盾点を次々と見いだすようになり、次第に主流派経済学に疑問を感じるようになったのです。

主流派の教えと矛盾した結果を導いたとき、最初は自身の理論化が誤っているのかと悩みました。3、4年におよぶ長い逡巡の末に、「矛盾こそが真実だ」と発想の転換をしたことを、今でもはっきりと覚えています。若さの気負いもあって、主流派経済学をひっくり返す仕事をしようと決めました。そして、7年かけて『不均衡動学』という本を出版したのですが、アメリカの経済学会では受け入れられず、帰国しました。

なぜ、主流派経済学の中心にいながら、主流派ではないことを考えるようになり、矛盾を明らかにしようとしたのかというと、かつて、文学をはじめ経済学以外の本をたくさん読み、多様なものに触れてきたこと、アメリカの中で純血ではなく海外から来た留学生だったこと、一時、マルクス経済学などを学んでいたことなどが、大きかったように思います。もちろん、私以前にも同様の考えを持った経済学者はおり、例えばそれは20世紀最大の経済学者ケインズや、19世紀末から20世紀初頭にスウェーデンで活躍したヴィクセルといった人々です。彼らの仕事はもちろん私に大きな影響を与えました。

―― 岩井先生の見いだした矛盾とは、どのようなものだったのですか。

主流派経済学の中心的な考え方は、アダム・スミスの「見えざる手」の思想です。それは「資本主義社会とは、市場メカニズムが機能していれば、個人の自己利益追求が、社会全体の利益、ひいては豊かな社会の実現につながる」という思想です。極端なことを言えば、資本主義には倫理は必要ないというのです。これは、「よい社会をつくるためには、一人ひとりが倫理的でなければならない」という、キリスト教を含む伝統的な社会思想を逆転したという意味で、画期的な思想です。

ところで、「見えざる手」とは、市場における価格の調整メカニズムの比喩的な表現ですが、私は、主流派がその価格の調整メカニズムそれ自体は理論化してきていないことに不満を持ち、最初はその経済理論を内部から補強しようと思ったのです。しかし、その理論化のプロセスの中で、先ほど述べた「矛盾」にぶつかり、そして最終的に「市場を自由放任の状態にすると、不安定になる」という結論に至りました。

ここでの不安定とは、たとえば戦前ドイツのハイパーインフレや、2008年のリーマン・ショック、1929年の大恐慌のよう

な事態です。ただ、そのような危機的状況は、歴史上もめったに起こるものではありません。では、なぜ現実の資本主義経済はある程度安定的であったのか？ここでも発想の転換をしました。それは、「見えざる手」の思想とは逆に、現実の経済には市場の円滑な動きを妨げるさまざまな不純物があるからだと。その中には政府の財政介入や中央銀行の金融政策が含まれます。反自由放任主義的な経済政策の必要性を示すことが出来たのです。

――今の研究テーマについて教えてください。

不均衡動学の基本的テーゼは、「資本主義経済とは貨幣経済であるから、必然的に不安定である」というものです。従って、私の次の関心は、「貨幣とは何か」に移りました。まず数学的な論文を英語で執筆し、1993年に日本語で『貨幣論』を出版しました。つい最近も、23年後の貨幣論というテーマで雑誌『WIRED』のインタビューを受けました。資本主義と貨幣についての私の考えは当時と変わっていませんが、新しい時代に合わせて考え直したり、考え直したことを発言したりしています。

資本主義は純粋化した結果、不安定化している

奇妙に感じるのは、グローバル化やインターネットの発達によって、私が『不均衡動学』や『貨幣論』に書いた世界に現実が近づいてきたことです。1980年代後半から1990年代初頭にかけて、ベルリンの壁とソ連が崩壊し、資本主義が一人勝ちとなりました。アダム・スミスの「見えざる手」の思想によれば、「世界を市場で覆い尽くせば、資本主義は豊かさと安定性を同時にもたらしてくれる」はずです。例えば労働市場が流動的になり、資本移動が自由になれば、すべてうまくいくはずだったのですが、リーマン・ショックが起こってしまいました。グローバル化それ自体が、「見えざる手」の壮大な実験で、リーマン・ショックは、その壮大な失敗だったのです。

――今後の社会をどう見ているのでしょうか。

いま私は、不均衡動学や貨幣論とは違った研究を主として行っています。それが「会社論」や、それに続く「信任論」です。発端は、法律誌に書いた英語論文です。会社について研究するうち、「会社とは不思議な存在だ」と気付いたのです。毎年、春学期にこの「会社論」をテーマとする『日本社会とビジネス』を開講しています。その授業の最初に、こう話すのです。

「会社は不思議ですね。実際は人の集まりにすぎない。だが、法律上は人として扱われる法人というものです。よく『会社は株主のもの』と言われますが、株主は、施設や設備の所有者でもなく、社員と雇用契約を結んでいるわけでもありません。『ＸＸ会社』という法人が、施設や設備を所有し、社員と雇用契約を結んでいるのです。会社は株主のものではないのです」。

次の問題として出てきたのは、「忠実義務」です。会社は、法律上は人ですが、現実には頭脳も肉体も持たない抽象的な存在でしかない。その会社が人として活動するには、その会社を動かす生身の人間が絶対に必要です。それが経営者なのです。しかも、経営者と会社との関係は契約ではあり得ない。なぜなら、会社の契約はすべて経営者が結びますから、その契約は経営者の自己契約になります。悪い経営者なら、自分にのみ有利な契約書をいくらでも書けてしまう。だから、経営者は自分の利益を抑え、法人としての会社の利益のみに忠実に仕事をするという「忠実義務」に縛られることになるのです。この忠実義務とは、「自分の利益を抑えて、他の人の利益のために仕事をする」という義務ですから、それはまさに「倫理的」な義務にほかなりません。

こうして私は、資本主義の中に「倫理」の必要を見いだしてしまったのです。その結果、倫理とは何かについて研究しています。近代社会の物質的な基礎には資本主義がありますが、その資本主義の中心には会社があり、その会社を実際に動かす経営者は、忠実義務という倫理的義務に縛られている。アダム・スミスの「見えざる手」の思想が、ここでもひっくり返されたのです。

実は、この忠実義務とは、経営者と会社の間だけでなく、たとえば専門家と非専門家の関係にも必要です。両者の間には知識や能力において絶対的な非対称性があるからです。例えば私が病気になって医者に治してもらう時、専門家の医者は私の病気のことを私以上に知っています。医者は、自分の利益のために自分の知識や能力を使うのではなく、患者の命のために、忠実に医療に当たらなければなりません。それではじめて私は信頼して私の身体を医者に任せられるのです。

そして、資本主義が発達した高度知識社会では、技術と知識が複雑になり、世の多くの人間関係は、専門家と非専門家の関係になりつつある。それは、忠実義務という「倫理」の重要性がこれからますます重要になってくることを意味するのです。

従来の学問領域からはみ出ることを考えざるを得ない

私は学者ですから、倫理やイデオロギーに頼らず、すべて論理で示したいと思って研究してきました。しかし、こと会社なるものを研究するに至って、結果として論理的に「倫理」の問題を考えざるを得なくなりました。従来の社会科学の考え方を論理的に追求すると、どうしても学問領域からはみ出ることを考えざるを得ないのです。

ICUで教えたいと考えた最大の理由の一つは、リベラルアーツの大学だからです。主流派経済学批判を行う中で、異なる領域に踏み込まざるを得なくなり、自身の研究がリベラルアーツ的なものを含み始めたことにあります。リベラルアーツ・カレッジでは、それを正々堂々と教えられます。

実は、リベラルアーツの重要性に気付いたのは、MIT時代にさかのぼります。大学院の同級生の何割かは、小さなリベラルアーツ・カレッジの卒業生でした。入学当初の彼らは専門知識に乏しく、数学が苦手だったりするのですが、その後の努力も相まって、博士論文を執筆する段になれば他の学生と何も変わらない。それどころか、バックグラウンドが広い人は考え方が面白いし、それが後の学問を助けることがあるのです。40歳以前なら、何年間か一定期間、集中して努力すれば、いつでも専門性を身に着けることが出来るはずです。学部時代は、いろいろな領域に触れることの方が重要だと思います。

ICUに着任したもう一つの理由が、国際性です。私は偶然、海外の大学院に進学し、欧米と日本を行き来するようになりましたが、英語で苦労し続けています。われわれの今の社会は、世界から切り離すことはできません。ICUは外国籍の教員も学生も多数おり、国際性のある大学です。私の苦しげな英語を聞いて、この国際性のある大学で勉強できることの幸せを、学生に知ってもらえれば幸いです。そして、私の講義が、国際的に活躍するであろう学生の将来に、何か役に立つことができればと願っています。

英語版は、大学WEBサイトをご覧ください。

Please visit our website for English version of the article.

http://www.icu.ac.jp/en/news/201611_katsuhito_iwai.html

岩井克人
IWAI, Katsuhito

1947年生まれ。東京大学経済学部卒業、マサチューセッツ工科大学Ph. D。イェール大学助教授、コウルズ経済研究所上級研究員、プリンストン大学客員準教授、ペンシルバニア大学客員教授、東京大学経済学部教授、日本学術会議会員等を経て、現在、国際基督教大学客員教授、東京大学名誉教授、日本学士院会員。著書に、Disequilibrium Dynamics（Yale University Press）、『ヴェニスの商人の資本論』（筑摩書房）、『貨幣論』（筑摩書房）、『二十一世紀の資本主義論』（筑摩書房）、『会社はこれからどうなるのか』（平凡社）、『資本主義から市民主義へ』（新書館）、『経済学の宇宙』（日経新聞出版社）など。ほかに論文やエッセー多数。日経図書文化賞特賞、サントリー学芸賞、小林秀雄賞、M&Aフォーラム正賞を受賞。さらに、紫綬褒章、ベオグラード大学名誉博士なども授与される。

From the Alumni House

アラムナイハウスから

photo by Eiichiro Kabashima

傘寿を超え米国からも2人参加 3期会報告

文：杉原昇（3）

秋色深まる2016年11月4日、アラムナイハウスで3期会が開催されました。同期生は全員が傘寿の80歳を超え、案内状形式の3期会は今回が最後とあって昨年より3人多い34人が参加。うち2人は、遠く米国から駆けつけるなど、大いに盛り上がりました。

会は、正午、森本あんり学務副学長による歓迎のあいさつを皮切りにスタート。今回、初めて海外（ジュネーブ）の同窓生と会場をSkypeで結び、多くの出席者がスクリーン上で対面、会話を楽しみました。また、記念文集「ICU3期生」が思いがけず19冊残っていることが最近、判明。会場で、希望者に配布したほか、過去に枯死問題で大騒ぎをした、マクリーン通りの桜の廃材を利用した同窓会グッズを3種類用意、福引で参加者全員に記念品として配布しました。

次年度以降はどのような形で希望者が参集できるか、その方法を検討することにして、集合写真を撮影。ICUソングを歌って午後3時、心を残しつつ散会しました。

35人が参加、新趣向で盛大に 6期会報告

文・山岡清二（6）　写真・徳永浩（6）

毎年恒例の6期会が2016年11月11日、有楽町の日本外国特派員協会で35人が参加して、にぎやかに開かれました。6期の卒業生、110人ほどのうち、欠席通知50通を合わせて85人に連絡ができ、コンタクト率は77％と、後期高齢者集団として出色の出来でした。

今年の趣向は、食事の最中、あらかじめ名乗り出た4人のスピーカーに、自ら選んだ題目で8分間、スピーチをしてもらったこと。4つのタイトルは「ルーマニアに暮らしてみて」「高齢社会とNGOの役割」「松浦武四郎と一畳敷」、そして「70の手習い」。齋藤美津子先生のEffective Speakingにちなんで幹事が企画したもので、宴席になじむかどうか心配でしたが結果は好評でした。

今回は、案内状・出欠通知を往復はがきからEメールに切り替えたため、経費と時間を大幅に軽減することができました。海外に住む級友とも連絡が容易です。来年も盛況が期待できそうです。

「ID86±3Reunion」を開催

文：小出正三（30 ID86）　写真：①中澤 Krystalcube えりか（30 ID86）②③⑥小出正三④同窓会事務局⑤⑦吉田繁美（24 ID80）⑧深江園子（31 ID87）

うららかな秋晴れに恵まれた2016年11月6日、卒業から30年の節目を迎えたID86の同窓生が、前後の学年の同窓生も交えて「ID86±3Reunion」を開催しました。

まずは、同窓会会長の木越純さん（27 ID83）の先導の下、大きく変わりつつあるキャンパスのミニツアーのはずが、うれしい誤算で、参加者が70人を超えるビッグツアー（写真①）に。美しく張り直された本館（写真②）や、建築中の教育寮など、見どころ満載のツアーでした。

子どもたち7人を含め計132人（写真③）が参加して、学生食堂で一次会。ICUらしく、遠く米国、英国、そしてイスラエルからの参加者も! 同期、9月生の中澤Krystalcubeえりかさん（写真⑤）がギターと歌の生演奏で華を添えてくださいました。

その後はアラムナイハウス（写真⑥）に場所を移し、さらに、5人の参加者を加えて二次会。こちらでは、Section Cの野中久美子さん（30 ID86、写真⑦）が、日本古来の能管の演奏を披露してくださいました。

ID86は、5年前の2011年にも100人を超える同期会を開催しており、次は5年後かな？同期の輪と和をさらに、大きくしたいですね！

第15回とちぎ支部会報告

文：荒川朋子（34 ID90）

2016年11月5日、福島県会津若松市の会津放射能情報センターで第15回とちぎ支部会を開催しました。今回は、2期から57期まで10人の卒業生に加えて、ICUで教えていらした名誉教授の丹羽芳雄先生、元教授の田坂興亜先生、それに、同伴者など計19人が集いました。

バスで移動し、車内で近況報告に花を咲かせているうちに昼食会場に到着。食後、飯盛山を散策した後、会場へ。まず原発事故から現在までの様子と、葛尾村と福島市から避難して来て

湯浅洋さんを悼む
世界のハンセン病対策に尽力

文：紀伊國　献三（1）

2016年9月7日、ICU初代学長・湯浅八郎と清子夫妻のご長男である湯浅洋さんが京都のご自宅近くの病院で90歳で昇天されました。裕子夫人（2）、長女・洋子さんに囲まれた穏やかな最期でした。しのぶ会も洋さんの人柄を反映した会となりました。

洋さんは米アマースト大学を病気で中退されましたが、ICUの単位と併せて両大学の卒業生（1期）でもあります。卒業後、英エジンバラ大学で医師となり、特にハンセン病の専門家としてネパールで奉仕。1975年、笹川記念保健協力財団（ICUの設立準備委員会委員の一人だった石館守三・東大名誉教授が設立）の初代・医療部長に就任され、その後、世界のハンセン病対策の中心として、35年間にわたって尽力されました。

財団刊行の“A Life Fighting Leprosy”にスピーチや文書が載っています。財団の以下のWebサイトからご覧いただけます。http://www.smhf.or.jp/hansen/publication/

いる方の証言をうかがいました。最近は、原発事故に関する報道がめっきり減ってきましたが、いまだに解決されていないことばかりであることを再認識する機会になりました。隣接する若松栄町教会は野口英世が洗礼を受けた由緒ある建物で、ここで記念撮影。帰途はバスの車窓から打ち上げ花火も見ることができ、予定より遅れたものの無事到着、解散となりました。

話尽きず、広がった交流の輪
丸の内Style支部報告

文：山脇真波（50 ID06）写真・池田伸壹（32 ID88）

「山の日」の前日の2016年8月10日、丸の内Style支部はオフィスワーカーでにぎわう丸の内で“Mid-summer Drinks”を開催。同窓会会長の木越純さん（27 ID83）が一番乗りで駆けつけてくださいました。

元同窓会会長の齋藤顕一さん（17）の温かいエールで乾杯。同窓会Webの「今を輝く同窓生たち」で齋藤さんのインタビューを受けられた岸谷美穂さん（42 ID98）も姿を現し、まさに最前線で輝く先輩とのリアルな交流の輪が生まれました。

「ICU生は群れないけれど、集まるとたくさん話ができる」とは言い得て妙で、真夏の夜の外で立ち飲みという、それなりにタフなコンディションの中、参加者は時間がたつのを忘れて話し込んでいました。

初めての人も含めて参加者は20人以上にのぼり、スマートフォン銀行、社内イベントの企画、ヨガ、日本語教師、起業、IoT（Internet of Things）、ICU設立時の話など、話題は尽きませんでした。

今後もこのような機会を設けていきたいと思っています。皆さんからの企画の持ち込み、大歓迎です。今回、参加できなかった方も、ぜひ参加してみてください！

香川支部が設立

文：浜崎直哉（37 ID93）

2016年11月16日に開催された同窓会理事会で、香川支部の設立が承認されました。今後は年に1回程度の総会に加え、交流会を折々、開催していく予定です。香川県に在住、またはお勤めの方で、まだご連絡をいただいていない方は、香川支部までお知らせください。メールアドレスは以下の通りです。

kagawa-chapter@icualumni.com

2017年2月25日、午後5時から高松市内で設立を記念する会を開催します。お知らせいただいた方に、詳細をお送りします。会長（名誉職）：末吉高明（17）支部長：浜崎直哉（37 ID93）

なごやかにリユニオンの茶会
徳島支部会報告

文：木村静香（29 ID85）

2016年9月25日、ホテルクレメント徳島で徳島支部会を開催しました。11期から37期（ID93）までの8人が出席。ホテル内のレストランの個室で、なごやかなリユニオンの茶会となりました。

参加者の中には立命館大学大学院教授だった中村純作さん（11）、それに、徳島文理中学校・高等学校で教えていた手束雅夫さん（16）の2人の元教員も。中村さんは退職記念講義をまとめた「何故、コーパスか？」を、また、手束さんは「第13回とくしま文学賞」で優秀賞を受賞した「裸足の多和田葉子と靴」の冊子をそれぞれ持参、初対面の方もいる中で話題づくりにご協力くださいました。

自己紹介を交えて2時間、懇談。楽しい交流のひとときでした。徳島県在住の卒業生は少ないため、今後は隣の香川県と合同で同窓会を企画するなど、卒業生の輪を広げることができればと考えています。

美術部OB会が作品展を開催

文・写真：岩田岳久（21 ID77）

美術部ＯＢ会は、ICU祭に合わせて隔年で行っている作品展を2016年10月22日、23日の両日、本館3階で開催しました。今回は4回目で、美術部OB会から5人、1期から9期までの卒業生が中心となって構成する「グループICU展」から3人の計8人が出展。出展者は、OB・学生合同展を行った2014年と比べて少なかったものの、同時に行った、昨年の地震で被害を受けたカトマンズの孤児たちが描いた絵葉書の販売支援企画を目当てに来られた方も多く、来場者は250人以上となりました。

今回は、学生のクラブ「アートプロジェクト」が活動を休止中のため、OBの作品だけの展示となりましたが、2年生の「アートプロジェクト」のメンバーが見に来てくれて、次回2018年のOB・学生合同展の開催に向けて今後、連絡を取り合うことになりました。卒業生と学生がアートを通じて語り合うことでお互いに新たな発見をする、そうした機会をこれからもつくっていきたいと思っています。ご支援のほど、よろしくお願いします。

寄付者御芳名　Donors

村上陽一郎 ICU 名誉教授

齋藤顕一（17）

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

貴重なご寄付を賜り、誠にありがとうございます。

たずね人　Missing

池田英人（35 ID91）

深見淳（43 ID99）

田中智己（49 ID05）

古川真宏（53 ID09）

市村脩一郎（57 ID13）

動静をご存じの方は事務局までご一報ください。

訃報　Obituary

福地崇生　元ICU教授

岩田みよ（特別会員）

湯浅洋（1）

二神桂子（1）

松本康司（2）

宮崎明子（3）

磯田泰男（3）

井上光正（4）

吉沢清（4）

永野元彦（5）

高城修（6）

梅岡典之（6）

荒牧長久（7）

鈴木紀久子（7）

山本保男（10）

後藤泰則（14）

水谷立夫（14）

原信田実（14）

緑川淳（20 ID76）

佐々木和子（23 ID79）

中野俊明（24 ID80）

西村誠（28 ID84）

鍵山靖子（29 ID85）

江頭達郎（32 ID88）

高須佳美（40 ID96）

平田慶子（G1961）

名嘉地六郎（G1964）

心よりお悔やみ申し上げます。

事務局からのお知らせ

★ 広告募集！

本誌では広告を募集しています。フルサイズ６万円、ハーフサイズ３万円で承っております。ご興味のある方は、詳細を事務局までお問い合わせ下さい。

★ 原稿をお寄せください！

期会、リユニオン等の案内・報告をお寄せください。本誌およびホームページに掲載いたします。

★住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際はメール（aaoffice@icualumni.com）または同窓会のホームページの住所変更から、ご一報ください。地方･海外にご転勤の際には支部をご紹介いたします。同窓会事務局までお問い合わせください。携帯の方はこちらからどうぞ：

★ ご協力をお願いします。

大学の宣伝＝大学への支援という考え方から、同窓生の著作、雑誌インタビューなどには、略歴欄に「国際基督教大学卒業」とお入れいただきますよう、お願い申し上げます。

■大学・同窓会に関する情報が満載です。ぜひ一度ご覧ください。

同窓会 Web サイト　http://www.icualumni.com/

同窓会 Facebook

http://www.facebook.com/icualumniassociation

大学 Web サイト　http://www.icu.ac.jp/

JICUF Web サイト　http://www.jicuf.org/

■ ICU 同窓会事務局

〒 181-8585　東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX : 0422-33-3320

Email : aaoffice@icualumni.com

■ 同窓会広報部（ALUMNI NEWS 編集部）

Email : kohou@icualumni.com

ウェディング・レセプション承ります

ご予算に合わせ、お料理のご注文に応じます。

同期会・サークルのお集まりなどのケータリングも、

ぜひご相談・お問い合わせください。

東京ケータリング（株）　ＩＣＵ食堂

TEL&FAX 0422-33-3519　携帯 080-3117-3203

e-mail; tck.icu-shokudou@chorus.ocn.ne.jp

桜祭りのご案内

今年も春の訪れを告げる同窓会「桜祭り」を開催します。

今回で12回目を迎える同窓会「桜祭り」は、同窓会年次総会、DAY賞表彰式、卒業50周年記念式典、懇親会など、さまざまな企画の同窓会総合イベントです。そして、毎年、卒業50周年の卒業生をお招きしていますが、今年は11期生の方々をご招待します。

できるだけ多くの方々が、この機会に桜咲くキャンパスに足をお運びになり、懐かしい方々との旧交を温めてくださいますように…。お知り合いの同窓生にお声かけの上、ご参加をお願い申し上げます。

当日は、今年度のDAY賞に決まった、みどり・シュローダー（10期）、ハンス・シュローダー（13期）ご夫妻が南アフリカで作っているICUワイン「Musashino Cross」や、同じく同窓生の蔵元が作る日本酒「ばか山」をはじめ、新作の楽しいICUグッズも多数用意しております。実際にお手に取って作品を吟味してみてください。 DAY（Distinguished Alumni of the Year）賞は、ICUに在籍したことのある人（卒業生・留学生・教職員を含む）の中から、大学、および、同窓会の知名度・魅力を高めることに貢献した方に対し、その功績を称えるため毎年、数人の方に授与されるものです。

今年は日曜日に開催

3月26日

2017年 ICU桜祭り

開催日：2017年3月26日（日）　場所：ICUキャンパス内

総会・DAY賞表彰式・11期生の卒業50周年記念式典（大学礼拝堂）

14：00 開場　14：30 開始、 16：15 終了予定

懇親会（ダイアログハウス内、大学食堂）

16:30　開始、 18:00　終了予定　参加費：4,000円（卒業生）、1,000円（在学生）

☆2016年夏、2017年春卒業の皆さまは「無料招待」とさせていただきます。

総会・懇親会出欠を、以下いずれかの方法で2017年3月12日（日）までにご連絡ください。

・インターネット送信

同窓会ホームページhttp://www.icualumni.com/?p=4684　からご登録いただけます。

携帯・スマホからはQRコードもご利用いただけます。→

・電子メール　aaoffice@icualumni.com

・ファックス/電話　0422-33-3320

・左下の返信用はがき（切り取り、はがきに貼ってご利用ください。 3月12日 消印有効）

はがきの宛先：〒181-8585　三鷹市大沢3-10-2　ICU同窓会事務局

このはがきを切り取ってFAXで送ることもできます。

※ 11期生の皆様へ

1月に別途郵送済みのはがきをご利用ください。

なお、同窓会正会員の方で、総会資料を事前に入手されたい方は、同窓会事務局からご登録の送付先住所に郵送いたします。
上記の問い合わせ先までご連絡ください。

2017年桜祭り　同窓会総会･懇親会

お願い：同窓生の方は一人一枚お出しください

＊総会（於：礼拝堂）に　　ご出席　・　ご欠席

ご欠席の正会員（卒業生）の方は以下をご確認ください。

議決権は＿＿＿＿＿＿＿氏（　　期）に委任します。

空欄の場合は議長に委任とさせていただきます。

＊懇親会（於：大学食堂）に　　ご出席　・　ご欠席

同窓生以外の同伴者の数＿＿＿＿名

ご住所　□□□－□□□□

お名前　ふりがな

旧姓：　　（　　期）

2017年DAY賞　受賞者

中島 和子 NAKAJIMA, Kazuko（3 ID 59/G1961）

1959年、ICU卒業。1961年、同大学院修了。その後、トロント大学大学院修了。海外に住む日本人子女、帰国子女、在日外国人子女、国際結婚家庭の子女など、多言語の環境に育つ子どもの健全な複数言語の発達において母語（出身言語）の重要性を理論的に広め、関係する教育・研究・行政に対して指導的役割を果たしてきた。トロント大学名誉教授。

みどり・シュローダー SCHRÖDER, Midori（10 ID66）
ハンス・シュローダー SCHRÖDER, Hans-Peter（13 ID69）

ICU在学中に出会い、卒業後、結婚。25年間、日本で生活した後、アパルトヘイト政策の終焉（しゅうえん）の兆しが見え出した南アフリカへ移住。ニール・エリス・ワイナリーを経営し、トップブランドとしての地位を確立した。2004年に誕生したICUワイン「Musashino Cross」の提供者。日本と南アフリカとの懸け橋として、両国親善に尽力している。現在は娘婿の作るスタークコンデワインを世界中に売り出している。

徳増 浩司 TOKUMASU, Koji（18 ID74）

1974年、ICU卒業。ウェールズに留学。その後、茨城・茗渓学園のラグビー部監督として全国大会で優勝した。1995年から日本ラグビーフットボール協会へ。ラグビーワールドカップ日本招致のために奔走、尽力し、2019年に日本での開催が決定。2015年にはアジアラグビー会長に就任し、アジアへのラグビーの普及や社会貢献を19年大会のレガシーに位置づける活動を続けている。

photo M.Matsushima

DAY賞候補者をご推薦ください

Distinguished Alumni of the Year（DAY）賞は、国際基督教大学に在籍したことのある方（卒業生・留学生・教職員。ただし故人は対象外）の中から、大学、および、同窓会の知名度・魅力度を高めることに貢献した方に対し、その功績を称えるために贈呈されます。推薦は年間を通して受け付けておりますが、受賞者は毎年、桜祭り開催の前年１０月１５日受け付け分までを対象とします。推薦および選考については公開されません。

受賞者は同窓会のWebサイトで発表するとともに、アラムナイニュースでお知らせいたします。

皆さまからのご推薦をお待ち申し上げております（自薦・他薦を問いません）。

WebサイトのDAY Awardより「DAY賞候補者をご推薦ください」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、同窓会事務局あてにお送りください。E-mail/Tel/Fax/郵送で受け付けております。

※必要事項　・推薦したい方の氏名と卒業年、あるいは在籍年（分かる範囲で）
・推薦理由（新聞記事等の客観的資料があれば併せてお送りください）
・あなた（推薦者）の氏名と卒業年
・あなた（推薦者）の住所・Tel.・E-mailアドレス
※歴代受賞者名と略歴は、同窓会HPに掲載しております。
→http://www.icualumni.com/?p=1071

ICU同窓会事務局
〒181-8585東京都三鷹市大沢3-10-2
Tel/Fax：0422-33-3320
E-mail：aaoffice@icualumni.com

福利厚生プログラム ICU同窓会WELBOXのご案内

同窓会では、株式会社イーウェルが運営するWELBOXという福利厚生プログラムを導入しています。会員制リゾートホテル・ハーベストが利用できるほか、国内宿泊のお得なプラン、映画や東急ハンズの割引、ヘルスケア、保育サービスなど、多様な優待プログラムが準備されており、同窓会員本人だけでなく、兄弟姉妹や子、孫、祖父母まで利用することができます（2親等以内の家族）。 同封のパンフレットをご一読のうえ、ぜひ積極的にご活用ください。

なお、終身会費をお納めいただいていない方はWELBOXのご利用登録ができません。ご不明な点は、同総会事務局までお問い合わせください。

詳しくは、http://www.icualumni.com/about/welbox.html で

同窓生向けメールサービス「@alm.icu.ac.jp」のご案内

2015年度から、大学での学生・教職員のコミュニケーションツールとしてGmail（@icu.ac.jp）が採用され、卒業する際に卒業生全員にアドレス（@alm.icu.ac.jp）が供与されるようになりました。これに伴い、2014年度以前の卒業生にも卒業生用アドレス（@alm.icu.ac.jp）を提供できることになりました。なお、すべての卒業生用アドレスの管理運用は同窓会が行います。

卒業生用のドメインは@alm.icu.ac.jp。大学などの高等教育機関向けであるac.jpのサブドメインです。同窓生は無料でお使いいただけます。是非、ご利用ください。

※@icu.jpおよび@alm.icu.jp をお使いの皆様へ。
同窓会では、2011年からYahoo! Japanの運営するサービスを利用して同窓会員向けメールアカウント（@icu.jp、および、@alm.icu.jp）を提供しておりましたが、Yahoo! Japanのサービスが終了したことに伴い、2016年6月30日（木）をもってこれらのアカウントの提供を終了させていただきました。ご利用いただいてきた皆さまにはご迷惑をおかけいたします。ぜひ、新しいGmail版メールサービスへの移行をお願いいたします。

詳しくは、 http://www.icualumni.com/mailservice/　で

STAFF

EDITOR IN CHIEF
神内一郎 JINNAI, Ichiro（33 ID89/G1992）

DEPUTY EDITOR
平澤直子 HIRASAWA, Naoko（45 ID01）

EDITOR
鷲見徹也 SUMI, Tetsuya（13）

STAFF WRITERS
山岡清二 YAMAOKA, Seiji（6）
朽木ゆり子 KUCHIKI, Yuriko（18/G1976）
福田敏也 FUKUDA, Toshiya（26 ID82）
望月厚志 MOCHIZUKI, Atsushi（26 ID82）
新村敏雄 SHINMURA, Toshio（27 ID83）
小熊由美子 OGUMA, Yumiko（33 ID89）
斎藤潤子 SAITO, Junko（34 ID90）
樺島榮一郎 KABASHIMA, Eiichiro（37 ID93/G1997）
安楽由紀子 ANRAKU, Yukiko（40 ID93）
森川幹人 MORIKAWA, Mikito（47 ID03）
野仲裕子 NONAKA, Yuko（48 ID04）
飯泉文子 IIZUMI, Ayako（51 ID07）
小林智世 KOBAYASHI, Tomoyo（52 ID08）
加藤菜穂 KATO, Naho（53 ID09）
岩井天音 IWAI, Amane（57 ID13）
千葉颯丸 CHIBA, Kazemaru（60 ID16）
岡本早織 OKAMOTO, Saori（60 ID16）
水野愛子 MIZUNO, Aiko（62 ID18）

PHOTOGRAPHER
一之瀬ちひろ ICHINOSE, Chihiro（42 ID98）

ART DIRECTOR
佐野久美子 SANO, Kumiko（44 ID00）

PRINTING DIRECTOR
坂井健 SAKAI, Takeshi（小宮山印刷）

EXECTIVE DIRECTOR
松島眞理 MATSUSHIMA, Mari（36 ID92）

PUBLISHER
木越純 KIGOSHI, Jun（27 ID83）

表紙・特集写真提供者
小野昭紀 (9)
棟居暁 (32 ID88)
小熊由美子 OGUMA, Yumiko (33 ID89)
松島眞理 MATSUSHIMA, Mari (36 ID92)
樺島榮一郎 KABASHIMA, Eiichiro (37 ID93/G1997)
永野貴裕 NAGANO, Takahiro (45 ID01)
山口尚登 YAMAGUCHI, Hisato (45 ID01)
加藤菜穂 KATO, Naho (53 ID09)
東原安由子 HIGASHIHARA, Ayuko (62 ID18)
ディセーン留根千代 DESSEYN, Reneechiyo (62 ID18)
国際基督教大学アドミッションズセンター

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生の皆さまのために制作しているものです。今後の制作の参考にしますので、ご意見・ご感想、企画や人物の紹介などがある方は、メールにてお気軽に同窓会事務局までお知らせください。

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験をANに生かしてみませんか？企画、取材、執筆、撮影、編集進行などを一緒にやって頂ける方を大募集中です。もちろん未経験でも可。最初は一緒に取材などを行いながら編集のプロから直接技術を学べますし、3年ぐらいやれば、一通り編集の基本が身に着きます。もちろん、現役の学生さんも大歓迎です。興味のある方は、同窓会事務局へメールでご連絡ください。

aaoffice@icualumni.com

WELCOME
2WD